

## 第3回

# 男女共同参画推進に関する 意識・実態調査報告書



【埼玉大学マスコットキャラクター】  
メリンちゃん

## はじめに

「男女共同参画推進に関する意識・実態調査」は、埼玉大学における男女共同参画、ジェンダー平等、ダイバーシティ環境実現の課題を明らかにするため、本学に男女共同参画室が設置された翌年の2010年から5年おきに実施しているものです。今回は、第3回目となります。埼玉大学の構成員である、附属学校園を含む全教員・職員・学生を対象に、今回は、新型コロナ感染といった状況もあり、ウェブ調査という方法をとりました。

今回の調査にあたり、経年変化をみるための一定の調査項目の継続性を大切にしながら、本学の課題をより明らかにするにはどういった調査項目が必要であるのかを、男女共同参画調査WGのメンバーで議論を重ねてきました。今年度からダイバーシティ推進室では、全学の中でも先駆けて教職協働の体制を実現してきました。その体制を活かし、職員の現状を踏まえた調査項目についての議論も深めることができました。本報告書の作成にあたって、この調査のリードをとってくださった金井郁さんを中心に、職員と教員がともに意見交換をしてきました。

埼玉大学の全体像を把握するためには十分な回収率とは言えませんが、それでも、本学のジェンダー平等の実現とダイバーシティ環境推進に向けた課題を明らかにする貴重なデータが得られたと考えています。具体的課題については本文にゆずりますが、ここで浮かび上がった問題の一つひとつを、埼玉大学の構成員の一人ひとりが当事者意識を持って受けとめ、埼玉大学で働き、学ぶすべての人の多様性が尊重され、包摂される環境づくりに協働して取り組む契機にできればと考えています。

今年度は、男女共同参画室がダイバーシティ推進室に名称を変更し、「ダイバーシティ宣言」を出した年です。このあらたな出発にふさわしい取り組みにつなげていきたいと思えます。

2021年3月31日

ダイバーシティ推進室室長  
田代美江子

ダイバーシティ推進室	
男女共同参画調査WG、ダイバーシティ・ジェンダー平等意識啓発WGメンバー（順不同）	
金 井 郁	大学院人文社会科学研究所教授（WGリーダー）
栗 島 智 明	大学院人文社会科学研究所准教授
渡 辺 大 輔	教育機構基盤教育研究センター准教授
西 袋 和 江	研究協力部研究支援課長
工 藤 秀 和	広報渉外室渉外係長
花 房 真理絵	国際室係長（国際企画担当）
田 代 美江子	教育学部教授・副学長（室長）
幅 崎 麻紀子	研究機構研究企画推進室准教授（副室長）
牧 ちひろ	総務部人事課教職員係

### 第3回男女共同参画推進に関する意識・実態調査 概要

**【目的】** 埼玉大学の教職員の意識・実態を調査し、本学において、よりよい就労・研究環境を整備していくための課題を明らかにすることを目的とする。1. 教員・研究員、2. 職員・附属学校園教員、3. 学生に分けて分析を行った。

**【対象】** 埼玉大学教職員（非常勤講師、パート教職員で本学の学生、TA・RAは除く。）、学生・大学院生・研究生

**【期間】** 2020年9月23日～10月20日

**【回収】** ①調査対象 教職員 1,026名 学生 8,236名  
 ②回収 教職員 501名 学生 1,213名  
 ③回収率 教職員 48.8% 学生 14.7%

#### 1. 教員・研究員

##### I. 回答者属性

教員 (N=215)

・性別

	N (人数)	%
男性	161	74.9%
女性	50	23.3%
答えたくない	4	1.9%

・年齢

	N (人数)	%
20代	1	0.5%
30代	26	12.1%
40代	71	33.0%
50代	74	34.4%
60代～	43	20.0%

・勤続年数

	N (人数)	%
3年未満	33	15.3%
3～6年未満	24	11.2%
6～10年未満	37	17.2%
10～20年未満	55	25.6%
20～30年未満	48	22.3%
30年以上	18	8.4%

・所属

	N (人数)	%
教育学部	41	19.1%
人文社会科学研究科 (学際系)	9	4.2%
人文社会科学研究科 (経済系)	32	14.9%

理工学研究科	100	46.5%
各機構・センター・国際本部	24	11.2%
その他	9	4.2%

・職位

	N (人数)	%
教授	86	40.0%
准教授・講師	82	38.1%
助教	29	13.5%
その他	18	8.4%

・勤務形態

	N (人数)	%
裁量労働制	192	89.3%
変形労働時間制	5	2.3%
定時出退勤	18	8.4%

・雇用契約期間

	N (人数)	%
無期雇用（終身雇用）	164	76.3%
有期雇用	51	23.7%

・パートナーの有無

	N (人数)	%
同居しているパートナーがいない	58	27.0%
同居しているパートナーがいる	154	71.6%
無回答	3	1.4%

・日本国籍の有無

	N (人数)	%
日本国籍をもっている	207	96.3%
日本国籍をもっていない	8	3.7%

研究員等 (N=4)

・性別

	N (人数)	%
男性	1	25.0%
女性	3	75.0%

・年齢

30代	2	50.0%
40代	1	25.0%
50代	1	25.0%

・勤続年数

	N (人数)	%
3年未満	1	25.0%

3～6年未満	3	75.0%
--------	---	-------

・所属

	N(人数)	%
理工学研究科	4	100.0%

・雇用形態

	N(人数)	%
非常勤・期間雇用	1	25.0%
非常勤・パート(週30時間)	1	25.0%
非常勤・パート(週30時間未満)	2	50.0%

・パートナーの有無

	N(人数)	%
同居しているパートナーがいない	2	50.0%
同居しているパートナーがいる	2	50.0%

・日本国籍の有無

	N(人数)	%
日本国籍をもっている	4	100.0%

## II. 労働実態

### 問2-8. 男女格差について

	件数	男性が優遇されている	男性がやや優遇されている	格差はない	女性がやや優遇されている	女性が優遇されている	無回答
①採用の条件に格差がある							
合計	219 100.0	8 3.7	23 10.5	156 71.2	16 7.3	10 4.6	6 2.7
性別.....男性	162 100.0	4 2.5	15 9.3	116 71.6	14 8.6	10 6.2	3 1.9
女性	53 100.0	3 5.7	8 15.1	37 69.8	2 3.8	-	3 5.7
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	3 75.0	-	-	-
②配置や仕事の分担に格差がある							
合計	219 100.0	6 2.7	21 9.6	166 75.8	17 7.8	1 0.5	8 3.7
性別.....男性	162 100.0	1 0.6	14 8.6	125 77.2	17 10.5	1 0.6	4 2.5
女性	53 100.0	4 7.5	6 11.3	39 73.6	-	-	4 7.5
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-
③賃金や昇給の面で格差がある							
合計	219 100.0	6 2.7	12 5.5	190 86.8	2 0.9	-	9 4.1
性別.....男性	162 100.0	1 0.6	9 5.6	144 88.9	2 1.2	-	6 3.7
女性	53 100.0	4 7.5	2 3.8	44 83.0	-	-	3 5.7
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-

	件数	男性が優遇されている	男性がやや優遇されている	格差はない	女性がやや優遇されている	女性が優遇されている	無回答
④昇進・昇格の機会に格差がある							
合計	219 100.0	8 3.7	29 13.2	165 75.3	7 3.2	2 0.9	8 3.7
性別. . . . . 男性	162 100.0	2 1.2	20 12.3	126 77.8	7 4.3	2 1.2	5 3.1
女性	53 100.0	5 9.4	8 15.1	37 69.8	-	-	3 5.7
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-
⑤新任研修や管理職研修、その他の教育訓練の機会に格差がある							
合計	219 100.0	2 0.9	8 3.7	202 92.2	-	-	7 3.2
性別. . . . . 男性	162 100.0	-	3 1.9	155 95.7	-	-	4 2.5
女性	53 100.0	1 1.9	4 7.5	45 84.9	-	-	3 5.7
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-
⑥福利厚生面で格差がある							
合計	219 100.0	5 2.3	4 1.8	192 87.7	10 4.6	1 0.5	7 3.2
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	3 1.9	146 90.1	7 4.3	1 0.6	4 2.5
女性	53 100.0	3 5.7	1 1.9	43 81.1	3 5.7	-	3 5.7
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	3 75.0	-	-	-
⑦評価に格差がある							
合計	219 100.0	5 2.3	11 5.0	187 85.4	7 3.2	-	9 4.1
性別. . . . . 男性	162 100.0	-	7 4.3	143 88.3	7 4.3	-	5 3.1
女性	53 100.0	4 7.5	3 5.7	42 79.2	-	-	4 7.5
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-

教員について男女格差の意識をみると、いずれの項目も「格差がない」という回答が両性ともにほぼ7割を超えており、全体としてみれば、格差の意識はそれほど強くないといえる。

ただし、採用の条件については、男性教員において「女性が優遇されている」「女性がやや優遇されている」と答えた割合が14.8%である一方、女性教員において「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は20.8%であり、自分と異なる性別のほうが優遇されていると感じている教員が、男女ともに一定数いることが分かる。配置や仕事の分担については、男性教員において「女性が優遇されている」「女性がやや優遇されている」と答えた割合は11.1%である一方、女性教員において「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は18.8%であり、ここでも上記と同様の傾向がみられる。

昇進・昇格の機会については、女性教員において「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は24.5%であり、高い水準となっている。他方、男性教員において「女性が優遇されている」「女性がやや優遇されている」と答えた割合は5.5%であることから、ここでは特に女性が、男女格差を強く感じていることがわかる。評価については「格差はない」と答えた割合が全体で85.4%であり、比較的高水準であるものの、女性教員において「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は13.2%である。

問2-9-4. 仕事の違いについて／男性は休暇が取りにくい

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	い ま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
合 計	91 100.0	5 5.5	25 27.5	36 39.6	21 23.1	4 4.4
性別. . . . . 男性	69 100.0	4 5.8	17 24.6	29 42.0	15 21.7	4 5.8
女性	19 100.0	1 5.3	7 36.8	6 31.6	5 26.3	-
答えたくない	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-
年齢. . . . . 20代・30代	8 100.0	1 12.5	-	5 62.5	2 25.0	-
40代	38 100.0	3 7.9	9 23.7	14 36.8	10 26.3	2 5.3
50代	29 100.0	1 3.4	10 34.5	12 41.4	4 13.8	2 6.9
60代～	16 100.0	-	6 37.5	5 31.3	5 31.3	-
勤続年数. . . . . 3年未満	13 100.0	1 7.7	4 30.8	5 38.5	3 23.1	-
3～6年未満	7 100.0	1 14.3	2 28.6	3 42.9	1 14.3	-
6～10年未満	20 100.0	-	6 30.0	5 25.0	7 35.0	2 10.0
10～20年未満	29 100.0	1 3.4	7 24.1	13 44.8	7 24.1	1 3.4
20～30年未満	14 100.0	2 14.3	1 7.1	8 57.1	2 14.3	1 7.1
30年以上	8 100.0	-	5 62.5	2 25.0	1 12.5	-
所属. . . . . 教育学部	15 100.0	1 6.7	7 46.7	4 26.7	3 20.0	-
人文社会科学研究科（学際系）	6 100.0	-	2 33.3	3 50.0	1 16.7	-
人文社会科学研究科（経済系）	8 100.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	2 25.0	-
理工学研究科	48 100.0	3 6.3	11 22.9	19 39.6	11 22.9	4 8.3
各機構・センター・国際本部	11 100.0	-	3 27.3	6 54.5	2 18.2	-
その他	3 100.0	-	-	1 33.3	2 66.7	-

「男性は休暇が取りにくい」と思うか否かについて、「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は33.0%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせた割合は62.7%であり、後者のほうが多い。男女別にみると、「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は男性教員で30.4%であったのに対し、女性教員では42.1%となっており、女性教員のほうが「男性は休暇が取りにくい」という認識を持っている割合が多い。

問2-10-2. 男女格差の原因／女性は体力的に男性より劣るから

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	い ま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
合 計	91 100.0	1 1.1	14 15.4	30 33.0	37 40.7	9 9.9
性別. . . . . 男性	69 100.0	1 1.4	11 15.9	19 27.5	30 43.5	8 11.6
女性	19 100.0	-	3 15.8	8 42.1	7 36.8	1 5.3
答えたくない	3 100.0	-	-	3 100.0	-	-
年齢. . . . . 20代・30代	8 100.0	-	1 12.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5
40代	38 100.0	-	2 5.3	16 42.1	16 42.1	4 10.5
50代	29 100.0	1 3.4	6 20.7	9 31.0	11 37.9	2 6.9
60代～	16 100.0	-	5 31.3	4 25.0	5 31.3	2 12.5

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	いま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
勤続年数. . . . . 3年未満	13 100.0	-	2 15.4	4 30.8	6 46.2	1 7.7
3～6年未満	7 100.0	-	1 14.3	3 42.9	3 42.9	-
6～10年未満	20 100.0	-	3 15.0	4 20.0	11 55.0	2 10.0
10～20年未満	29 100.0	-	3 10.3	12 41.4	10 34.5	4 13.8
20～30年未満	14 100.0	1 7.1	3 21.4	3 21.4	5 35.7	2 14.3
30年以上	8 100.0	-	2 25.0	4 50.0	2 25.0	-
所属. . . . . 教育学部	15 100.0	-	3 20.0	7 46.7	4 26.7	1 6.7
人文社会科学研究科（学際系）	6 100.0	-	1 16.7	1 16.7	2 33.3	2 33.3
人文社会科学研究科（経済系）	8 100.0	-	1 12.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5
理工学研究科	48 100.0	1 2.1	6 12.5	15 31.3	22 45.8	4 8.3
各機構・センター・国際本部	11 100.0	-	2 18.2	3 27.3	5 45.5	1 9.1
その他	3 100.0	-	1 33.3	-	2 66.7	-

男女格差の原因について「女性は体力的に男性より劣るから」と思うか否かについて、「強く思う」という回答は1名（1.1%）のみであり、「やや思う」も、男性教員で15.9%、女性教員で15.8%と低い水準にある。もっとも「女性は体力的に男性より劣る」というジェンダーバイアスを持つ教員が、男女ともに10%以上存在していることは注意すべきと思われる。

問2-10-4. 男女格差の原因／女性は仕事に対する姿勢が甘いから

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	いま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
<b>合 計</b>	<b>91 100.0</b>	<b>1 1.1</b>	<b>6 6.6</b>	<b>25 27.5</b>	<b>49 53.8</b>	<b>10 11.0</b>
性別. . . . . 男性	69 100.0	1 1.4	4 5.8	17 24.6	38 55.1	9 13.0
女性	19 100.0	-	1 5.3	6 31.6	11 57.9	1 5.3
答えたくない	3 100.0	-	1 33.3	2 66.7	-	-
年齢. . . . . 20代・30代	8 100.0	-	-	1 12.5	6 75.0	1 12.5
40代	38 100.0	-	2 5.3	10 26.3	22 57.9	4 10.5
50代	29 100.0	-	2 6.9	11 37.9	13 44.8	3 10.3
60代～	16 100.0	1 6.3	2 12.5	3 18.8	8 50.0	2 12.5
勤続年数. . . . . 3年未満	13 100.0	-	2 15.4	3 23.1	7 53.8	1 7.7
3～6年未満	7 100.0	-	-	3 42.9	4 57.1	-
6～10年未満	20 100.0	-	1 5.0	5 25.0	12 60.0	2 10.0
10～20年未満	29 100.0	-	2 6.9	8 27.6	15 51.7	4 13.8
20～30年未満	14 100.0	-	1 7.1	3 21.4	7 50.0	3 21.4
30年以上	8 100.0	1 12.5	-	3 37.5	4 50.0	-



	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	い ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
所属. . . . . 教育学部	15 100.0	-	1 6.7	5 33.3	7 46.7	2 13.3
人文社会科学研究科（学際系）	6 100.0	-	-	2 33.3	2 33.3	2 33.3
人文社会科学研究科（経済系）	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	4 50.0	1 12.5
理工学研究科	48 100.0	-	3 6.3	13 27.1	28 58.3	4 8.3
各機構・センター・国際本部	11 100.0	-	1 9.1	4 36.4	5 45.5	1 9.1
その他	3 100.0	-	-	-	3 100.0	-

男女格差の原因は「女性は仕事に対する姿勢が甘いから」だと思うか否かについて、「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は少数（7.7%）とはいえ、男女いずれにせよ、そのような意見を持つ教員がいることは問題だと考えられる。

### Ⅲ. 家事・育児・介護の負担状況

#### 問3-1. 家事の担当

	件数	自 分	パ ー ト ナ ー	そ の 他 の 家 族	そ の 他	無 回 答
①食事の支度						
合 計	219 100.0	114 52.1	137 62.6	20 9.1	4 1.8	3 1.4
性別. . . . . 男性	162 100.0	65 40.1	121 74.7	16 9.9	3 1.9	1 0.6
女性	53 100.0	46 86.8	15 28.3	4 7.5	1 1.9	1 1.9
答えたくない	4 100.0	3 75.0	1 25.0	-	-	1 25.0
④住生活管理（掃除、自動車管理、庭の手入れなど）						
合 計	219 100.0	180 82.2	102 46.6	22 10.0	6 2.7	5 2.3
性別. . . . . 男性	162 100.0	133 82.1	85 52.5	17 10.5	4 2.5	2 1.2
女性	53 100.0	45 84.9	14 26.4	4 7.5	2 3.8	2 3.8
答えたくない	4 100.0	2 50.0	3 75.0	1 25.0	-	1 25.0
⑤衣生活管理（洗濯や衣類整理、アイロンがけなど）						
合 計	219 100.0	131 59.8	130 59.4	24 11.0	4 1.8	4 1.8
性別. . . . . 男性	162 100.0	80 49.4	118 72.8	19 11.7	3 1.9	2 1.2
女性	53 100.0	48 90.6	10 18.9	4 7.5	1 1.9	1 1.9
答えたくない	4 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	-	1 25.0

家事の担当では、女性教員は、炊事、掃除、洗濯のいずれも8割以上が担当している一方、男性教員が8割以上を担当している家事は住生活管理のみであり、家事労働の大部分を女性が担ってい

ることがわかる。

問3-2. あなたが担っている、現在の家事労働に負担を感じていますか

	件数	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
<b>合計</b>	<b>219</b> 100.0	<b>23</b> 10.5	<b>58</b> 26.5	<b>102</b> 46.6	<b>36</b> 16.4	-
性別 . . . . . 男性	162 100.0	10 6.2	38 23.5	81 50.0	33 20.4	-
女性	53 100.0	11 20.8	20 37.7	20 37.7	2 3.8	-
答えたくない	4 100.0	2 50.0	-	1 25.0	1 25.0	-
年齢 . . . . . 20代・30代	27 100.0	1 3.7	8 29.6	12 44.4	6 22.2	-
40代	73 100.0	13 17.8	22 30.1	28 38.4	10 13.7	-
50代	75 100.0	8 10.7	13 17.3	42 56.0	12 16.0	-
60代～	44 100.0	1 2.3	15 34.1	20 45.5	8 18.2	-

家事労働の負担についても、女性教員の 58.5%は「かなり感じている」「少し感じている」と回答している一方、男性教員は 29.7%であり、男女の負担感は大きく異なっている。年代別では 40代が最も負担感を感じている。

問4-1-1. 育児の担当者

	件数	自分	パートナー	その他の家族	その他	該当者がいない	無回答
<b>合計</b>	<b>219</b> 100.0	<b>84</b> 38.4	<b>96</b> 43.8	<b>8</b> 3.7	<b>2</b> 0.9	<b>89</b> 40.6	<b>7</b> 3.2
性別 . . . . . 男性	162 100.0	58 35.8	87 53.7	6 3.7	1 0.6	63 38.9	3 1.9
女性	53 100.0	24 45.3	7 13.2	2 3.8	1 1.9	25 47.2	3 5.7
答えたくない	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	1 25.0	1 25.0
年齢 . . . . . 20代・30代	27 100.0	4 14.8	7 25.9	-	-	18 66.7	2 7.4
40代	73 100.0	41 56.2	38 52.1	2 2.7	-	24 32.9	1 1.4
50代	75 100.0	24 32.0	35 46.7	3 4.0	2 2.7	27 36.0	3 4.0
60代～	44 100.0	15 34.1	16 36.4	3 6.8	-	20 45.5	1 2.3

育児経験にも男女差が見られる。「該当者がいない」との回答は女性教員の場合は 47.2%だが、男性教員は 38.9%である。また、育児経験がある場合、女性教員は主に自分が育児の担い手となり、男性教員の場合はパートナーが育児の担い手となっている。年齢別にみると、40代では自分とパートナーが育児を担っているが、それ以外の年齢では、パートナーが育児の担い手となっている。

問4-2. あなたが担っている、育児に負担を感じていますか（いましたか）

	件数	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
合計	84 100.0	21 25.0	29 34.5	29 34.5	5 6.0	-
性別. . . . . 男性	58 100.0	10 17.2	16 27.6	27 46.6	5 8.6	-
女性	24 100.0	9 37.5	13 54.2	2 8.3	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
答えたくない	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-
年齢. . . . . 20代・30代	4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-
40代	41 100.0	13 31.7	12 29.3	13 31.7	3 7.3	-
50代	24 100.0	4 16.7	10 41.7	9 37.5	1 4.2	-
60代～	15 100.0	4 26.7	5 33.3	5 33.3	1 6.7	-
雇用契約期間. . . . 無期雇用（終身雇用）	62 100.0	14 22.6	17 27.4	26 41.9	5 8.1	-
有期雇用	19 100.0	6 31.6	10 52.6	3 15.8	-	-
日本国籍有無. . . . 日本国籍をもっている	81 100.0	20 24.7	27 33.3	29 35.8	5 6.2	-
日本国籍をもっていない	3 100.0	1 33.3	2 66.7	-	-	-

女性教員の9割以上が育児に負担感を感じている一方、男性教員は約半数しか感じていない。年代によって負担感も異なり、特に40代での育児の負担感が高くなっている。

雇用契約期間別でも差異が表れており、有期雇用の場合8割以上が負担感を感じているが、無期雇用の場合は約5割である。また、日本国籍の有無で見ると、「日本国籍を持っていない」人全員が負担感を感じており、雇用や社会的資源の脆弱性なども育児負担感に影響を及ぼしているものと推測される。

問4-1-2. 介護の担当者

	件数	自分	パートナー	その他の家族	その他	該当者がいない	無回答
合計	219 100.0	49 22.4	38 17.4	17 7.8	7 3.2	129 58.9	11 5.0
性別. . . . . 男性	162 100.0	34 21.0	34 21.0	11 6.8	5 3.1	100 61.7	6 3.7
女性	53 100.0	14 26.4	4 7.5	6 11.3	2 3.8	27 50.9	4 7.5
その他	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	-	2 50.0	1 25.0

	件数	自分	パートナー	その他の家族	その他	該当者がいない	無回答
年齢. . . . . 20代・30代	27 100.0	-	-	3 11.1	-	22 81.5	2 7.4
40代	73 100.0	5 6.8	3 4.1	3 4.1	3 4.1	58 79.5	5 6.8
50代	75 100.0	26 34.7	18 24.0	3 4.0	2 2.7	35 46.7	3 4.0
60代～	44 100.0	18 40.9	17 38.6	8 18.2	2 4.5	14 31.8	1 2.3
所属. . . . . 教育学部	41 100.0	15 36.6	10 24.4	4 9.8	-	17 41.5	3 7.3
人文社会科学研究科（学際系）	9 100.0	3 33.3	2 22.2	3 33.3	-	5 55.6	-
人文社会科学研究科（経済系）	32 100.0	5 15.6	7 21.9	1 3.1	1 3.1	21 65.6	1 3.1
理工学研究科	104 100.0	17 16.3	18 17.3	6 5.8	3 2.9	67 64.4	6 5.8
各機構・センター・国際本部	24 100.0	6 25.0	-	1 4.2	3 12.5	15 62.5	1 4.2
その他	9 100.0	3 33.3	1 11.1	2 22.2	-	4 44.4	-

回答者の約4割が介護を経験している。介護の担い手にも男女差が見られ、女性教員は「自分」が主たる担い手である一方、男性教員は「自分」と「パートナー」の双方が主たる担い手となっている。年代別に見ると、50代以上では半数が、60代以上では約7割に介護経験があり、50代では「自分」が最も多いが、60代では、「自分」「パートナー」の割合が拮抗している。また、学部によって介護経験のある比率は異なり、教育学部にその比率が高い。

問4-3. あなたが担っている、介護に負担を感じていますか（いましたか）

	件数	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
合計	49 100.0	8 16.3	24 49.0	13 26.5	-	4 8.2
性別. . . . . 男性	34 100.0	4 11.8	18 52.9	11 32.4	-	1 2.9
女性	14 100.0	3 21.4	6 42.9	2 14.3	-	3 21.4
答えたくない	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-

介護の負担感にも男女差がややみられ、女性教員の「かなり感じている」と答えている人の比率が高い。

問4-4. あなたは、埼玉大学で育児休業を取得しましたか

	件数	取得した	取得しなかった	制度がなかった	子どもがいない	無回答
合計	219 100.0	5 2.3	101 46.1	25 11.4	83 37.9	5 2.3
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	86 53.1	21 13.0	51 31.5	3 1.9
女性	53 100.0	4 7.5	13 24.5	3 5.7	31 58.5	2 3.8
答えたくない	4 100.0	-	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-

問4-6. 育児休業を取得しなかった理由を教えてください

	件数	か仕事を中断したくない	か収入を減らしたくない	た必要性を感じなかった	確自分以外の介護者を確保できた	なできた職場環境ではなかった	制度はあったが取得できる環境ではなかった	制度を知らなかった	業パートナーが育児休業を取得した	その他	無回答
合計	101 100.0	22 21.8	7 6.9	44 43.6	20 19.8	13 12.9	6 5.9	6 5.9	14 13.9	21 20.8	2 2.0
性別. . . . . 男性	86 100.0	20 23.3	6 7.0	40 46.5	18 20.9	13 15.1	6 7.0	6 7.0	13 15.1	13 15.1	2 2.3
女性	13 100.0	2 15.4	1 7.7	3 23.1	2 15.4	2 -	-	-	1 7.7	7 53.8	-
答えたくない	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-

育児休業を「取得した」と答えた人はわずか2.3%である。「取得した」人の8割は「有期雇用」であり、育児休業による雇用期間延長制度が認知・活用されているためか、雇用契約期間による育児休業取得への影響は見られない。

また、所属部局による育児休業取得に差異が見られ、「取得した」と回答した人は理工学研究科のみであった。また、「日本国籍をもっていない」人の全員が育児休業を取得していない。部局により育児休業を取得しにくい環境、外国籍の人の場合も育児休業を取得しにくい環境があるのではないだろうか。

育児休業取得期間は「6ヵ月未満」が6割を占める。育児休業を取得しなかった理由では「必要性を感じなかった」と回答している人が、全年齢層において最も多いものの、「仕事を中断しなかった」及び「制度はあったが取得できる環境ではなかった」との回答率は年代が低いほど高くなっており、今後、その背景の詳細な分析が必要である。

問4-10. 介護休業を取得しなかった理由を教えてください

	件数	か仕事を中断したくない	か収入を減らしたくない	た必要性を感じなかった	確自分以外の介護者を確保できた	なできた職場環境ではなかった	制度はあったが取得できる環境ではなかった	制度を知らなかった	業パートナーが介護休業を取得した	その他	無回答
合計	68 100.0	15 22.1	7 10.3	23 33.8	22 32.4	7 10.3	6 8.8	6 8.8	3 4.4	5 7.4	3 4.4
性別. . . . . 男性	52 100.0	13 25.0	3 5.8	19 36.5	19 36.5	3 5.8	5 9.6	5 9.6	2 3.8	2 3.8	2 3.8
女性	14 100.0	2 14.3	3 21.4	4 28.6	3 21.4	4 28.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1	2 14.3	1 7.1
答えたくない	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-

介護休業を「取得した」と回答した人は皆無であった。介護休業を取得しなかった理由は、男性の場合、「必要性を感じなかった」「自分以外の介護者を確保できた」が36.5%と最も多いが、女性の場合は「必要性を感じなかった」「制度はあったが取得できる職場環境ではなかった」が28.6%と最も高くなっている。

職位別にみると、どの職位でも「必要性を感じなかった」「自分以外の介護者を確保できた」人

が多くなっているが、「仕事を中断したくなかった」人の教授の比率がやや多く、「制度はあったが取得できる職場環境ではなかった」人が准教授・講師及び助教でやや多くみられる。この中には、何らかの理由で介護休業を取得しなかった人も含まれることが予想される。今後、その背景を分析することが必要である。

#### IV. ハラスメントについての認識

問5-1. あなたは、ハラスメントについての研修を今までに受けたことがありますか

	件数	ある	ない	無回答
合計	219 100.0	163 74.4	45 20.5	11 5.0
性別. . . . . 男性	162 100.0	123 75.9	32 19.8	7 4.3
女性	53 100.0	36 67.9	13 24.5	4 7.5
答えたくない	4 100.0	4 100.0	-	-
年齢. . . . . 20代・30代	27 100.0	17 63.0	10 37.0	-
40代	73 100.0	50 68.5	17 23.3	6 8.2
50代	75 100.0	58 77.3	14 18.7	3 4.0
60代～	44 100.0	38 86.4	4 9.1	2 4.5
勤続年数. . . . . 3年未満	34 100.0	22 64.7	11 32.4	1 2.9
3～6年未満	27 100.0	18 66.7	8 29.6	1 3.7
6～10年未満	37 100.0	25 67.6	9 24.3	3 8.1
10～20年未満	55 100.0	42 76.4	9 16.4	4 7.3
20～30年未満	48 100.0	42 87.5	4 8.3	2 4.2
30年以上	18 100.0	14 77.8	4 22.2	-
所属. . . . . 教育学部	41 100.0	39 95.1	1 2.4	1 2.4
人文社会科学研究科（学際系）	9 100.0	6 66.7	2 22.2	1 11.1
人文社会科学研究科（経済系）	32 100.0	27 84.4	5 15.6	-
理工学研究科	104 100.0	74 71.2	25 24.0	5 4.8
各機構・センター・国際本部	24 100.0	14 58.3	7 29.2	3 12.5
その他	9 100.0	3 33.3	5 55.6	1 11.1

ハラスメント研修を埼玉大学で受けたことがあるかどうかについては、女性教員の方が受けたことがない者が多いが、それは勤続年数や雇用形態（有期か無期雇用か、定時出勤かどうかなど）に左右されていると考えられる。着任時に雇用形態にかかわらず、ハラスメント研修を受けられるようにする必要があるといえる。

問5-5. 埼玉大学には、ハラスメント相談の窓口、システムがあるのを知っていましたか

	件数	はい	いいえ	無回答
<b>合計</b>	<b>219</b>	<b>204</b>	<b>14</b>	<b>1</b>
	<b>100.0</b>	<b>93.2</b>	<b>6.4</b>	<b>0.5</b>
性別. . . . . 男性	162	157	5	-
	100.0	96.9	3.1	-
女性	53	44	8	1
	100.0	83.0	15.1	1.9
その他	-	-	-	-
答えたくない	4	3	1	-
	100.0	75.0	25.0	-
年齢. . . . . 20代・30代	27	24	3	-
	100.0	88.9	11.1	-
40代	73	67	6	-
	100.0	91.8	8.2	-
50代	75	69	5	1
	100.0	92.0	6.7	1.3
60代～	44	44	-	-
	100.0	100.0	-	-
勤続年数. . . . . 3年未満	34	28	6	-
	100.0	82.4	17.6	-
3～6年未満	27	22	5	-
	100.0	81.5	18.5	-
6～10年未満	37	36	1	-
	100.0	97.3	2.7	-
10～20年未満	55	53	1	1
	100.0	96.4	1.8	1.8
20～30年未満	48	48	-	-
	100.0	100.0	-	-
30年以上	18	17	1	-
	100.0	94.4	5.6	-
所属. . . . . 教育学部	41	41	-	-
	100.0	100.0	-	-
人文社会科学研究科（学際系）	9	9	-	-
	100.0	100.0	-	-
人文社会科学研究科（経済系）	32	29	2	1
	100.0	90.6	6.3	3.1
理工学研究科	104	96	8	-
	100.0	92.3	7.7	-
各機構・センター・国際本部	24	22	2	-
	100.0	91.7	8.3	-
その他	9	7	2	-
	100.0	77.8	22.2	-

ハラスメント研修を受けたことがあるかどうかと同様に、ハラスメント相談窓口の有無を知っているかどうかに関しても、女性教員の方が知らない割合が高い。これも勤続年数や雇用形態（有期か無期雇用か、定時出勤かどうかなど）に左右されていると考えられる。着任時に、雇用形態にかかわらず、ハラスメント研修や相談窓口、ハラスメントのガイドブックについて周知する機会を設ける必要がある。

問5-2. セクハラに関する意見

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	いま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
①性的なジョークや話題を規制すると職場の人間関係が窮屈になる						
合 計	219 100.0	13 5.9	22 10.0	60 27.4	123 56.2	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	11 6.8	19 11.7	46 28.4	85 52.5	1 0.6
女性	53 100.0	2 3.8	3 5.7	12 22.6	36 67.9	-
答えたくない	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-
②セクハラ行為は受ける側にも問題がある						
合 計	219 100.0	3 1.4	10 4.6	64 29.2	142 64.8	-
性別. . . . . 男性	162 100.0	2 1.2	5 3.1	49 30.2	106 65.4	-
女性	53 100.0	1 1.9	5 9.4	13 24.5	34 64.2	-
答えたくない	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-
③少々のセクハラにいちいち目くじらを立てるべきではない						
合 計	219 100.0	1 0.5	15 6.8	72 32.9	130 59.4	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	8 4.9	55 34.0	98 60.5	-
女性	53 100.0	-	7 13.2	15 28.3	30 56.6	1 1.9
答えたくない	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-
④相手が女性か男性かによって仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない						
合 計	219 100.0	1 0.5	38 17.4	51 23.3	128 58.4	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	31 19.1	37 22.8	92 56.8	1 0.6
女性	53 100.0	-	7 13.2	12 22.6	34 64.2	-
答えたくない	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-
⑤勘違いまたは悪意によるセクハラへのえん罪が発生することが心配である						
合 計	219 100.0	20 9.1	113 51.6	53 24.2	33 15.1	-
性別. . . . . 男性	162 100.0	20 12.3	84 51.9	36 22.2	22 13.6	-
女性	53 100.0	-	27 50.9	16 30.2	10 18.9	-
答えたくない	4 100.0	-	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-

セクハラに関する意見について、本学教員の結果からは、男女ともにえん罪を心配する声が男女ともに強いことがわかる。また、「セクシュアルハラスメントを受ける側に問題がある」と考える人が一人でもいる組織では、セクハラを申告することを控える、申告した後の2次被害につながる土壤になる。組織全体で「セクハラとは何か」を男女ともに繰り返し学んでいく必要があるといえる。



問5-3. 関係者から受けたハラスメント

	件数	受けたことがある	見たたり聞いたたりした	ある相談を受けたことがある	いずれもない	無回答
①容姿・体型・服装・年齢・化粧などについて繰り返し話題にする						
合計	219 100.0	18 8.2	31 14.2	6 2.7	171 78.1	-
性別.....男性	162 100.0	7 4.3	22 13.6	4 2.5	131 80.9	-
女性	53 100.0	10 18.9	9 17.0	2 3.8	37 69.8	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
②性的な話を聞かされる						
合計	219 100.0	12 5.5	27 12.3	4 1.8	179 81.7	-
性別.....男性	162 100.0	2 1.2	19 11.7	4 2.5	138 85.2	-
女性	53 100.0	9 17.0	7 13.2	-	39 73.6	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	-
③気軽に身体に触られる						
合計	219 100.0	6 2.7	10 4.6	7 3.2	198 90.4	-
性別.....男性	162 100.0	1 0.6	5 3.1	4 2.5	152 93.8	-
女性	53 100.0	5 9.4	5 9.4	3 5.7	42 79.2	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
④胸、お尻、脚などの身体の一部を見つめられる						
合計	219 100.0	3 1.4	8 3.7	6 2.7	204 93.2	-
性別.....男性	162 100.0	-	3 1.9	4 2.5	156 96.3	-
女性	53 100.0	3 5.7	5 9.4	2 3.8	44 83.0	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑤個人を中傷するような（性的なものも含む）うわさを流される						
合計	219 100.0	22 10.0	25 11.4	10 4.6	170 77.6	1 0.5
性別.....男性	162 100.0	13 8.0	17 10.5	7 4.3	130 80.2	1 0.6
女性	53 100.0	7 13.2	8 15.1	3 5.7	38 71.7	-
答えたくない	4 100.0	2 50.0	-	-	2 50.0	-
⑥食事やデートにしつこく誘われる						
合計	219 100.0	2 0.9	15 6.8	4 1.8	199 90.9	-
性別.....男性	162 100.0	-	10 6.2	1 0.6	151 93.2	-
女性	53 100.0	2 3.8	5 9.4	3 5.7	44 83.0	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑦酔って抱きつかれたり、触られたりする						
合計	219 100.0	3 1.4	11 5.0	2 0.9	202 92.2	1 0.5
性別.....男性	162 100.0	-	5 3.1	1 0.6	156 96.3	-
女性	53 100.0	3 5.7	6 11.3	1 1.9	42 79.2	1 1.9
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-

	件数	受けたことがある	見たたり聞いたりしたことがある	相談を受けたことがある	いずれもない	無回答
⑧お酌を強要される						
合計	219 100.0	6 2.7	12 5.5	4 1.8	197 90.0	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	5 3.1	6 3.7	3 1.9	149 92.0	-
女性	53 100.0	1 1.9	6 11.3	1 1.9	44 83.0	1 1.9
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑨出張への同行を強要されたり、出張先で不必要に自室に呼ばれたりする						
合計	219 100.0	1 0.5	11 5.0	4 1.8	203 92.7	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	7 4.3	2 1.2	152 93.8	1 0.6
女性	53 100.0	-	4 7.5	2 3.8	47 88.7	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑩不快な内容の電話、手紙、メールを個人的に送られる						
合計	219 100.0	21 9.6	17 7.8	8 3.7	180 82.2	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	13 8.0	10 6.2	6 3.7	136 84.0	1 0.6
女性	53 100.0	6 11.3	7 13.2	2 3.8	42 79.2	-
答えたくない	4 100.0	2 50.0	-	-	2 50.0	-
⑪不快感をおぼえるような性別による決めつけや役割の強要がある						
合計	219 100.0	8 3.7	16 7.3	4 1.8	195 89.0	-
性別. . . . . 男性	162 100.0	2 1.2	8 4.9	4 2.5	150 92.6	-
女性	53 100.0	5 9.4	8 15.1	-	42 79.2	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑫差別的な発言や扱いを受ける						
合計	219 100.0	18 8.2	23 10.5	13 5.9	172 78.5	2 0.9
性別. . . . . 男性	162 100.0	6 3.7	15 9.3	11 6.8	133 82.1	2 1.2
女性	53 100.0	9 17.0	8 15.1	2 3.8	38 71.7	-
答えたくない	4 100.0	3 75.0	-	-	1 25.0	-
⑬望まない性的関係を強要される						
合計	219 100.0	-	3 1.4	1 0.5	213 97.3	2 0.9
性別. . . . . 男性	162 100.0	-	1 0.6	-	160 98.8	1 0.6
女性	53 100.0	-	2 3.8	1 1.9	49 92.5	1 1.9
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑭人前で罵倒、叱責される						
合計	219 100.0	27 12.3	39 17.8	13 5.9	152 69.4	-
性別. . . . . 男性	162 100.0	17 10.5	25 15.4	11 6.8	115 71.0	-
女性	53 100.0	9 17.0	13 24.5	2 3.8	35 66.0	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	-

	件数	受けたことがある	見たたり聞いたたりしたことがある	相談を受けたことがある	いずれもない	無回答
⑮人間関係からの切り離し						
合計	219 100.0	15 6.8	18 8.2	9 4.1	183 83.6	2 0.9
性別. . . . . 男性	162 100.0	8 4.9	10 6.2	7 4.3	139 85.8	2 1.2
女性	53 100.0	4 7.5	8 15.1	2 3.8	43 81.1	-
答えたくない	4 100.0	3 75.0	-	-	1 25.0	-
⑯過大な要求あるいは過小な要求を受ける						
合計	219 100.0	25 11.4	21 9.6	9 4.1	172 78.5	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	13 8.0	15 9.3	7 4.3	131 80.9	1 0.6
女性	53 100.0	9 17.0	6 11.3	2 3.8	40 75.5	-
答えたくない	4 100.0	3 75.0	-	-	1 25.0	-
⑰物を投げつける、小突かれるなど、身体的な暴力を受ける						
合計	219 100.0	3 1.4	11 5.0	3 1.4	204 93.2	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	7 4.3	2 1.2	151 93.2	1 0.6
女性	53 100.0	2 3.8	4 7.5	1 1.9	49 92.5	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑱まちぶせされたり、つきまとわれたりする						
合計	219 100.0	5 2.3	16 7.3	6 2.7	196 89.5	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	1 0.6	9 5.6	4 2.5	148 91.4	1 0.6
女性	53 100.0	3 5.7	7 13.2	2 3.8	45 84.9	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑲要求に応じないと報復がある、または要求に応じれば対価があると思わされる						
合計	219 100.0	18 8.2	14 6.4	10 4.6	182 83.1	1 0.5
性別. . . . . 男性	162 100.0	12 7.4	8 4.9	9 5.6	136 84.0	1 0.6
女性	53 100.0	5 9.4	5 9.4	1 1.9	44 83.0	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	-

ハラスメント被害は1件でもあれば、重大である。「望まない性的関係を強制される」以外は、どの項目についても最低一人は被害を受けていた。どの行為についても、本人が「受けたことがある」と回答している割合は、男性教員よりも女性教員の方が多くなっている。

セクハラに関する考えと合わせて、この被害を検討すると、以下の学問的指摘を真摯に組織として受け止め、繰り返し、組織としてセクハラは何かを学んでいく必要があることが浮き彫りとなる。

セクシュアルハラスメントは、しばしば「男女関係」として軽く扱われたり、冷ややかな嘲笑の対象にされたり、逆に過度にセンセーショナルな性的事件として誇張されたりしてきた。それはセクシュアルハラスメントに対する社会の理解の水準が未だ低水準にあることを表すものに他ならない。多くの対策マニュアルで見られるように、セクシュアルハラスメントに該当する行為の事例を列挙するだけでは、なぜそれが防止すべきことなのかを理解しにくい。耳慣れてきたから理解

したつもりで軽んじるのではなく、セクシュアルハラスメントを根絶するためには、その本質とセクシュアルハラスメントがもたらす害について、今なお熟慮する必要がある（申、2021）。

## 2. 職員・附属学校園教員

### I. 回答者属性

職員（附属学校園含む）（N=253）

#### ・性別

	N (人数)	%
男性	127	50.2%
女性	122	48.2%
答えたくない	4	1.6%

#### ・年齢

	N (人数)	%
20代	28	11.1%
30代	60	23.7%
40代	61	24.1%
50代	75	29.6%
60代～	29	11.5%

#### ・勤続年数

	N (人数)	%
3年未満	47	18.6%
3～6年未満	52	20.6%
6～10年未満	42	16.6%
10～20年未満	34	13.4%
20～30年未満	35	13.8%
30年以上	43	17.0%

#### ・所属

	N (人数)	%
事務局（各学部支援室等含む）	170	67.2%
各機構・センター	54	21.3%
附属学校園	21	8.3%
その他	8	3.2%

#### ・職位

	N (人数)	%
課長相当職以上	17	6.7%
課長代理相当職	19	7.5%
係長相当職	40	15.8%
主任・一般職員等	69	27.3%
技術職員	16	6.3%

常勤その他	5	2.0%
事務補佐員・技術補佐員（期間雇用）	7	2.8%
事務補佐員・技術補佐員（パート（週30時間））	61	24.1%
事務補佐員・技術補佐員（パート（週30時間未満））	13	5.1%
非常勤その他	6	2.4%

・雇用契約期間

	N (人数)	%
無期雇用（終身雇用）	172	68.0%
有期雇用	81	32.0%

・パートナーの有無

	N (人数)	%
同居しているパートナーがいない	72	28.5%
同居しているパートナーがいる	177	70.0%
無回答	4	1.6%

・日本国籍の有無

	N (人数)	%
日本国籍をもっている	252	99.6%
日本国籍をもっていない	1	0.4%

附属学校園教員（N=29）

・性別

	N (人数)	%
男性	21	72.4%
女性	8	27.6%

・年齢

	N (人数)	%
20代	4	13.8%
30代	15	51.7%
40代	9	31.0%
50代	1	3.4%

・勤続年数

	N (人数)	%
3年未満	6	20.7%
3～6年未満	10	34.5%
6～10年未満	6	20.7%
10～20年未満	5	17.2%
20～30年未満	2	6.9%

・所属

	N (人数)	%
附属幼稚園	3	10.3%

附属小学校	12	41.4%
附属中学校	9	31.0%
附属特別支援学校	5	17.2%

・パートナーの有無

	N(人数)	%
同居しているパートナーがいない	8	27.6%
同居しているパートナーがいる	21	72.4%

・日本国籍の有無

	N(人数)	%
日本国籍をもっている	29	100.0%

## II. 労働実態

問2-3. 残業する場合、1ヶ月平均何時間残業をしますか/最も忙しい月

	件数	0時間	1~5時間	6~10時間	11~15時間	16~20時間	21~25時間	26~30時間	31時間以上	無回答	平均	実数合計
合計	253	156	53	29	1	14	-	-	1.8	435	100.0	3347
性別.....男性	127	25	27	13	18	14	13	5	9	3	17.9	2219
女性	122	48	21	4	11	11	7	3	2	15	10.5	1124
答えたくない	4	2	1	-	-	-	-	-	-	1	1.3	4
	100.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0		0.1

問2-4. 職務上、会議や業務が17時以降や土曜日、日曜日などに行われることがありますか、それともありませんか

	件数	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答
合計	253	8	48	65	132	-
性別.....男性	127	6	29	38	54	-
女性	122	2	19	26	75	-
答えたくない	4	-	-	1	3	-
	100.0	-	-	25.0	75.0	-

最も忙しい月の1ヶ月の平均残業時間を男女別にみると、男性が17.9時間、女性が10.5時間であり、男性は女性と比べて約7時間多く残業していることがわかる。また、30%近くの職員が全く残業していないと回答している一方、31時間以上残業していると回答している職員が15%いることがわかり、特定の人に業務が集中している可能性がある。

附属学校園教員でも、平均残業時間を男女別にみると、男性は女性と比べて多くなっている。また、特定の人に業務が集中していることが見受けられる。さらに、附属学校園では会議や業務が17時以降や土・日曜日に行われることが職員に比べて多く見受けられる。

問2-5. あなたは、病気や冠婚葬祭以外の個人的理由で年次休暇を1年間に付与日数の何%取得していますか

	件数	取得なし	0 ～ 25%未満	25 ～ 50%未満	50 ～ 75%未満	75 ～ 90%未満	90 ～ 100%以上	無回答
合計	253 100.0	5 2.0	38 15.0	37 14.6	60 23.7	97 38.3	15 5.9	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	19 15.0	22 17.3	33 26.0	47 37.0	4 3.1	1 0.8
女性	122 100.0	4 3.3	18 14.8	15 12.3	26 21.3	49 40.2	10 8.2	-
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-
年齢. . . . . 20代	28 100.0	2 7.1	3 10.7	5 17.9	4 14.3	13 46.4	1 3.6	-
30代	60 100.0	-	10 16.7	6 10.0	15 25.0	26 43.3	3 5.0	-
40代	61 100.0	1 1.6	6 9.8	8 13.1	19 31.1	21 34.4	6 9.8	-
50代	75 100.0	1 1.3	15 20.0	14 18.7	15 20.0	26 34.7	4 5.3	-
60代～	29 100.0	1 3.4	4 13.8	4 13.8	7 24.1	11 37.9	1 3.4	1 3.4
非常勤 期間雇用	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3	1 14.3	4 57.1	-	-
パート (週30時間)	61 100.0	2 3.3	9 14.8	4 6.6	12 19.7	27 44.3	7 11.5	-
パート (週30時間未満)	13 100.0	-	1 7.7	4 30.8	3 23.1	4 30.8	1 7.7	-
その他	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	2 33.3	1 16.7	-

病気や冠婚葬祭以外の個人的理由で年次休暇を75%以上取得している職員は、44.3%と5割近くいることがわかった。年齢別にみると特に20代、30代の75%以上の取得率が45%前後と他の年代より高くなっている。さらに職員を常勤・非常勤別にみると、75%以上取得したと回答した割合は常勤職員39.7%、非常勤職員52.8%となっており、後者の取得率が高いことがわかる。

個人的な理由で年次休暇を取得していないと回答した職員は、常勤職員1.4%、非常勤職員4.5%いるが、これは制度上年次休暇を付与されていない者も含まれていると考えられる。

附属学校園教員でみると個人的理由で年次休暇を全く取得していない者もおり、取得している者でも取得日数が25%未満の者(41.3%)で最も高くなっている。有給休暇を取得しやすい雰囲気については、附属学校園教員では、3割近くが「あまり取得しやすい雰囲気ではない。」「全く取得しやすい雰囲気ではない」と回答したが、職員では2.8%であった。

問2-8. 男女格差について

	件数	男性が優遇されている	男性がやや優遇されている	格差はない	女性がやや優遇されている	女性が優遇されている	無回答
①採用の条件に格差がある							
合計	253 100.0	5 2.0	14 5.5	215 85.0	8 3.2	1 0.4	10 4.0
性別. . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	4 3.1	115 90.6	4 3.1	1 0.8	2 1.6
女性	122 100.0	4 3.3	10 8.2	97 79.5	4 3.3	-	7 5.7
答えたくない	4 100.0	-	-	3 75.0	-	-	1 25.0

	件数	男性が優遇されている	男性がやや優遇されている	格差はない	女性がやや優遇されている	女性が優遇されている	無回答
②配置や仕事の分担に格差がある							
合計	253 100.0	7 2.8	23 9.1	182 71.9	29 11.5	1 0.4	11 4.3
性別 . . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	10 7.9	96 75.6	17 13.4	1 0.8	2 1.6
女性	122 100.0	6 4.9	12 9.8	84 68.9	12 9.8	-	8 6.6
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0
③賃金・昇給の面で格差がある							
合計	253 100.0	6 2.4	25 9.9	212 83.8	-	-	10 4.0
性別 . . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	14 11.0	110 86.6	-	-	2 1.6
女性	122 100.0	5 4.1	10 8.2	100 82.0	-	-	7 5.7
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0
④昇進・昇格の機会に格差がある							
合計	253 100.0	9 3.6	46 18.2	182 71.9	3 1.2	1 0.4	12 4.7
性別 . . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	25 19.7	94 74.0	2 1.6	1 0.8	3 2.4
女性	122 100.0	7 5.7	20 16.4	86 70.5	1 0.8	-	8 6.6
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0
⑤新任研修や管理職研修、その他の教育訓練の機会に格差がある							
合計	253 100.0	6 2.4	5 2.0	232 91.7	-	-	10 4.0
性別 . . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	3 2.4	121 95.3	-	-	2 1.6
女性	122 100.0	5 4.1	2 1.6	108 88.5	-	-	7 5.7
答えたくない	4 100.0	-	-	3 75.0	-	-	1 25.0
⑥福利厚生の中で格差がある							
合計	253 100.0	2 0.8	4 1.6	219 86.6	15 5.9	1 0.4	12 4.7
性別 . . . . . 男性	127 100.0	-	1 0.8	113 89.0	9 7.1	1 0.8	3 2.4
女性	122 100.0	2 1.6	2 1.6	104 85.2	6 4.9	-	8 6.6
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0
⑦評価に格差がある							
合計	253 100.0	6 2.4	16 6.3	215 85.0	2 0.8	-	14 5.5
性別 . . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	3 2.4	117 92.1	2 1.6	-	4 3.1
女性	122 100.0	5 4.1	12 9.8	96 78.7	-	-	9 7.4
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0

男女格差については、どの項目も男性の方が「格差はない」と回答した割合が高かった。これは、女性からみた場合、全ての項目で男性が「優遇されている」「やや優遇されている」と感じている



裏返しではないかと思われる。男性が「女性がやや優遇されている」「女性が優遇されている」と回答してる割合が高かったのは「配置や仕事の分担に格差がある」の14.2%であった。

また、女性が「男性がやや優遇されている」「男性が優遇されている」と回答している割合が特に高かったのは「昇進・昇格の機会に格差がある」の22.1%であった。

### 問2-9. 男性と女性の仕事の違いについて

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	いま つた くそ う思 わな い	無 回 答
<b>①女性の仕事は補助的業務や雑務が多い</b>						
合計	97 100.0	7 7.2	38 39.2	38 39.2	12 12.4	2 2.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	-	15 31.9	22 46.8	8 17.0	2 4.3
女性	49 100.0	7 14.3	22 44.9	16 32.7	4 8.2	-
答えたくない	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
<b>②男性の仕事は責任が重くきつい</b>						
合計	97 100.0	6 6.2	31 32.0	48 49.5	9 9.3	3 3.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	2 4.3	20 42.6	17 36.2	5 10.6	3 6.4
女性	49 100.0	4 8.2	11 22.4	30 61.2	4 8.2	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
<b>③時間外労働が男性に偏りがちである</b>						
合計	97 100.0	7 7.2	39 40.2	36 37.1	13 13.4	2 2.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	2 4.3	25 53.2	12 25.5	6 12.8	2 4.3
女性	49 100.0	5 10.2	14 28.6	23 46.9	7 14.3	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
<b>④男性は休暇が取りにくい</b>						
合計	97 100.0	6 6.2	18 18.6	48 49.5	23 23.7	2 2.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	2 4.3	9 19.1	24 51.1	10 21.3	2 4.3
女性	49 100.0	4 8.2	9 18.4	23 46.9	13 26.5	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-

男女の仕事の違いについては、「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」に「強くそう思う」「ややそう思う」との女性の回答は約6割(59.2%)で、男性の回答は約3割(31.9%)であり、2倍近い女性はその様に感じている。逆に「男性の仕事は責任が重くきつい」「時間外労働が男性に偏りがちである」に「そう思う」との女性の回答は男性の回答を大きく下回っており、その様に女性は感じていないことがわかる。

「男性は休暇が取りにくい」に「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答していたのは全体で7割を超えている。

問2-10. 男女格差の原因

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	いま た く そ う 思 わ な い	無 回 答
①女性は男性に比べて勤続年数が短いから						
合計	97 100.0	2 2.1	12 12.4	51 52.6	31 32.0	1 1.0
性別. . . . . 男性	47 100.0	-	4 8.5	25 53.2	17 36.2	1 2.1
女性	49 100.0	2 4.1	8 16.3	25 51.0	14 28.6	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
②女性は体力的に男性より劣るから						
合計	97 100.0	3 3.1	28 28.9	42 43.3	23 23.7	1 1.0
性別. . . . . 男性	47 100.0	1 2.1	9 19.1	22 46.8	14 29.8	1 2.1
女性	49 100.0	2 4.1	19 38.8	19 38.8	9 18.4	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
③上司や同僚に男女差別意識があるから						
合計	97 100.0	6 6.2	36 37.1	39 40.2	15 15.5	1 1.0
性別. . . . . 男性	47 100.0	-	14 29.8	22 46.8	10 21.3	1 2.1
女性	49 100.0	6 12.2	21 42.9	17 34.7	5 10.2	-
答えたくない	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
④女性は仕事に対する姿勢が甘いから						
合計	97 100.0	3 3.1	13 13.4	46 47.4	33 34.0	2 2.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	1 2.1	8 17.0	17 36.2	19 40.4	2 4.3
女性	49 100.0	2 4.1	5 10.2	28 57.1	14 28.6	-
答えたくない	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
⑤女性は結婚・育児等で、家庭での役割が増すから						
合計	97 100.0	14 14.4	57 58.8	12 12.4	13 13.4	1 1.0
性別. . . . . 男性	47 100.0	4 8.5	28 59.6	7 14.9	7 14.9	1 2.1
女性	49 100.0	10 20.4	28 57.1	5 10.2	6 12.2	-
答えたくない	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	い ま つ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
⑥社会の男女差別的な意識や制度が埼玉大学にも反映されているから						
合 計	97 100.0	9 9.3	37 38.1	38 39.2	11 11.3	2 2.1
性別. . . . . 男性	47 100.0	4 8.5	13 27.7	23 48.9	6 12.8	1 2.1
女性	49 100.0	5 10.2	23 46.9	15 30.6	5 10.2	1 2.0
答えたくない	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-

男女格差の原因について調査をした 6 項目の中で「強くそう思う」「ややそう思う」の回答が最も高い割合であったものは、男女ともに「女性は結婚・育児等で、家庭での役割が増すから」（男性 68.1%、女性 77.5%）であった。

特に、男女の意識の差が最もあったのは「上司や同僚に男女差別意識があるから」（男性 21.2%、女性 55.1%）で女性の割合が 25.3%高かった。

### Ⅲ. 家事・育児・介護の負担状況

#### 問 3 - 1 - 1. 家事の担当／食事の支度

	件数	自 分	パ ー ト ナ ー	そ の 他 の 家 族	そ の 他	無 回 答
合 計	253 100.0	168 66.4	103 40.7	35 13.8	4 1.6	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	56 44.1	83 65.4	15 11.8	3 2.4	-
女性	122 100.0	108 88.5	18 14.8	20 16.4	1 0.8	-
答えたくない	4 100.0	4 100.0	2 50.0	-	-	-
年齢. . . . . 20代	28 100.0	20 71.4	5 17.9	7 25.0	1 3.6	-
30代	60 100.0	41 68.3	27 45.0	7 11.7	1 1.7	-
40代	61 100.0	49 80.3	17 27.9	5 8.2	-	-
50代	75 100.0	44 58.7	36 48.0	13 17.3	2 2.7	-
60代～	29 100.0	14 48.3	18 62.1	3 10.3	-	-

男性の 44.1%、女性の 88.5%が、「食事の支度」を「自分」で行うと回答しており、男女間の回答に大きな差がみられた。「自分」で「食事の支度」を行う割合は、40代の 80.3%をピークに 50代(58.7%)、60代(48.3%)と下がっていった。職位別では、課長代理相当職は 73%以上が「パートナー」と回答していた。非常勤職員においては、パート職員（週 30 時間）が 82%、パート職員（週 30 時間未満）は 100%が「自分」と回答していた。

また、附属学校園教員では、「食事の支度」を「自分」で行うと回答した男性は 19%であった。一

方で女性は、75%であった。

問3-2. あなたが担っている、現在の家事労働に負担を感じていますか

	件数	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
合計	253 100.0	31 12.3	78 30.8	119 47.0	24 9.5	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	8 6.3	27 21.3	72 56.7	19 15.0	1 0.8
女性	122 100.0	22 18.0	50 41.0	45 36.9	5 4.1	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-
年齢. . . . . 20代	28 100.0	4 14.3	12 42.9	10 35.7	2 7.1	-
30代	60 100.0	9 15.0	16 26.7	26 43.3	9 15.0	-
40代	61 100.0	11 18.0	24 39.3	24 39.3	2 3.3	-
50代	75 100.0	4 5.3	19 25.3	44 58.7	8 10.7	-
60代~	29 100.0	3 10.3	7 24.1	15 51.7	3 10.3	1 3.4

家事労働に負担を「かなり感じている」「少し感じている」と答えた男性は27.6%、女性は59.0%であった。また、家事労働に負担を「あまり感じていない」「まったく感じていない」と答えた男性は71.7%、女性は41.0%であった。勤続年数別では、勤続3~6年の20代職員において、負担を感じている割合が高い(57.2%)ことがわかった。

問4-1-1. 育児の担当者

	件数	自分	パートナー	その他の家族	その他	該当者がいない	無回答
合計	253 100.0	108 42.7	79 31.2	4 1.6	3 1.2	119 47.0	3 1.2
性別. . . . . 男性	127 100.0	35 27.6	54 42.5	1 0.8	2 1.6	69 54.3	1 0.8
女性	122 100.0	71 58.2	25 20.5	3 2.5	1 0.8	48 39.3	2 1.6
答えたくない	4 100.0	2 50.0	-	-	-	2 50.0	-
年齢. . . . . 20代	28 100.0	3 10.7	1 3.6	-	-	25 89.3	-
30代	60 100.0	23 38.3	20 33.3	-	2 3.3	32 53.3	-
40代	61 100.0	41 67.2	20 32.8	1 1.6	-	17 27.9	-
50代	75 100.0	32 42.7	27 36.0	3 4.0	1 1.3	34 45.3	2 2.7
60代~	29 100.0	9 31.0	11 37.9	-	-	11 37.9	1 3.4

子供のいる男性のうち、育児の担当者が「自分」と答えたのは、27.6%に対し「パートナー」は42.5%であった。女性は58.2%が「自分」と回答しており、2倍近い差がある。また、「該当者がいない」も回答者(253名)の47%(119名)いた。

30代で子供がいる人のうち「自分」と「パートナー」と回答した人は同じ程度の数であった。このことから30代職員は、パートナーと協力して育児に参加している様子がみてとれる。

附属学校園教員では、育児を「自分」で行うと回答した男性は71.4%であった。また、子供がいる女性教員自体が少ないようであった。

問4-2. あなたが担っている、育児に負担を感じていますか（いましたか）

	件数	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
合計	108 100.0	25 23.1	44 40.7	34 31.5	5 4.6	-
性別. . . . . 男性	35 100.0	1 2.9	12 34.3	19 54.3	3 8.6	-
女性	71 100.0	24 33.8	30 42.3	15 21.1	2 2.8	-
答えたくない	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-
年齢. . . . . 20代	3 100.0	1 33.3	2 66.7	-	-	-
30代	23 100.0	5 21.7	12 52.2	6 26.1	-	-
40代	41 100.0	10 24.4	16 39.0	14 34.1	1 2.4	-
50代	32 100.0	5 15.6	13 40.6	10 31.3	4 12.5	-
60代～	9 100.0	4 44.4	1 11.1	4 44.4	-	-

育児の担当者が「自分」で、負担を「かなり感じている」または「少し感じている」男性は37.2%、女性は76.1%。「あまり感じていない」または「まったく感じていない」男性は62.9%、女性は23.9%。男女間の差が大きいことがわかった。また、30代は73.9%が負担を感じていると回答した。

問4-4. あなたは、埼玉大学で育児休業を取得しましたか

	件数	取得した	取得しなかった	制度がなかった	子どもがいない	無回答
合計	253 100.0	27 10.7	68 26.9	39 15.4	113 44.7	6 2.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	5 3.9	41 32.3	20 15.7	61 48.0	-
女性	122 100.0	22 18.0	27 22.1	19 15.6	50 41.0	4 3.3
答えたくない	4 100.0	-	-	-	2 50.0	2 50.0
年齢. . . . . 20代	28 100.0	3 10.7	-	-	25 89.3	-
30代	60 100.0	11 18.3	13 21.7	3 5.0	33 55.0	-
40代	61 100.0	10 16.4	20 32.8	9 14.8	19 31.1	3 4.9
50代	75 100.0	3 4.0	28 37.3	14 18.7	28 37.3	2 2.7
60代～	29 100.0	-	7 24.1	13 44.8	8 27.6	1 3.4

男性 127 名のうち、該当者がいないと回答したのは 61 名で、全体の約半数であった。該当者がいる男性 66 名のうち、育児休業を取得したのは 5 名であり、取得率の低さが目立った。また、50 代と 60 代においては「取得しなかった」「制度がなかった」が 60%を超えた。

問 4-6. 育児休業を取得しなかった理由を教えてください

	件数	か仕事 を中 断し たく な か つ た	か収 入を 減ら した く な か つ た	た必 要性 を感じ なかつ た	確自 分以 外の 保育 者を 確保 でき た	か制 度は あつ たが 取得 でき ない 環 境 では な い	制 度を 知ら なかつ た	業 を 取 得 し た バ ー ト ナ ー が 育 児 休 業 を 取 得 し た	そ の 他	無 回 答
合 計	68 100.0	11 16.2	9 13.2	16 23.5	10 14.7	5 7.4	4 5.9	12 17.6	24 35.3	2 2.9
性別..... 男性	41 100.0	11 26.8	9 22.0	8 19.5	10 24.4	5 12.2	4 9.8	12 29.3	5 12.2	1 2.4
女性	27 100.0	-	-	8 29.6	-	-	-	-	19 70.4	1 3.7
年齢..... 20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30代	13 100.0	5 38.5	4 30.8	2 15.4	4 30.8	2 15.4	1 7.7	6 46.2	3 23.1	-
40代	20 100.0	3 15.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	11 55.0	-
50代	28 100.0	3 10.7	2 7.1	8 28.6	4 14.3	1 3.6	1 3.6	3 10.7	8 28.6	2 7.1
60代~	7 100.0	-	-	3 42.9	1 14.3	-	-	1 14.3	2 28.6	-

育児休業を取得しなかった男性の主な理由として「仕事を中断しなくなかった」「収入を減らしたくなかった」「必要性を感じなかった」が回答の 65.0% (27 名) を占めた。

#### IV. ハラスメントについての認識

問 5-1. あなたは、ハラスメントについての研修を今までに受けたことがありますか

	件数	はい	いいえ	無 回 答
合 計	253 100.0	149 58.9	99 39.1	5 2.0
性別..... 男性	127 100.0	94 74.0	31 24.4	2 1.6
女性	122 100.0	53 43.4	66 54.1	3 2.5
答えたくない	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-
年齢..... 20代	28 100.0	12 42.9	16 57.1	-
30代	60 100.0	34 56.7	25 41.7	1 1.7
40代	61 100.0	27 44.3	33 54.1	1 1.6
50代	75 100.0	53 70.7	19 25.3	3 4.0
60代~	29 100.0	23 79.3	6 20.7	-
所属..... 事務局 (各学部支援室等含む)	170 100.0	99 58.2	68 40.0	3 1.8
各機構・センター	54 100.0	28 51.9	25 46.3	1 1.9
附属学校園	21 100.0	17 81.0	3 14.3	1 4.8
その他	8 100.0	5 62.5	3 37.5	-

研修の受講率について、性別では男性 74.0%、女性 43.4%となっており、年齢では 50 代以上、勤続年数では 10 年以上から、それぞれ 70%以上、所属では附属学校園が 81.0%と高い受講率となっている。職位では係長相当職以上から 77%以上と高い受講率となっている。女性、若年層、非常勤職員等が低い受講率となっており、研修参加について大学側の配慮が求められる。

問 5 - 5. 埼玉大学には、ハラスメント相談の窓口、システムがあるのを知っていましたか

	件数	はい	いいえ	無回答
<b>合計</b>	<b>253</b> 100.0	<b>217</b> 85.8	<b>36</b> 14.2	-
性別 . . . . . 男性	127 100.0	113 89.0	14 11.0	-
女性	122 100.0	101 82.8	21 17.2	-
その他	-	-	-	-
答えたくない	4 100.0	3 75.0	1 25.0	-
年齢 . . . . . 20代	28 100.0	17 60.7	11 39.3	-
30代	60 100.0	53 88.3	7 11.7	-
40代	61 100.0	53 86.9	8 13.1	-
50代	75 100.0	67 89.3	8 10.7	-
60代～	29 100.0	27 93.1	2 6.9	-
勤続年数 . . . . . 3年未満	47 100.0	23 48.9	24 51.1	-
3～6年未満	52 100.0	46 88.5	6 11.5	-
6～10年未満	42 100.0	38 90.5	4 9.5	-
10～20年未満	34 100.0	32 94.1	2 5.9	-
20～30年未満	35 100.0	35 100.0	-	-
30年以上	43 100.0	43 100.0	-	-
所属 . . . . . 事務局（各学部支援室等含む）	170 100.0	146 85.9	24 14.1	-
各機構・センター	54 100.0	49 90.7	5 9.3	-
附属学校園	21 100.0	14 66.7	7 33.3	-
その他	8 100.0	8 100.0	-	-

「ハラスメント相談の窓口、システムがあるのを知っていましたか」について、年齢では 20 代で「いいえ」が 39.3%、勤続年数でも 3 年未満で「いいえ」が 51.1%となっている。附属学校園教員でも年齢では 20 代・30 代で「いいえ」が 47.4%、勤続年数でも 3 年未満で「いいえ」が 83.3%となっている。「ハラスメント防止ガイドブックを見たことがありますか」についてもほぼ同様の結果となっており、若年層への積極的な周知が求められる。

問5-2. セクハラに関する意見

	件数	強く そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	い ま つ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
①性的なジョークや話題を規制すると職場の人間関係が窮屈になる						
合 計	253 100.0	22 8.7	35 13.8	99 39.1	97 38.3	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	12 9.4	14 11.0	52 40.9	49 38.6	-
女性	122 100.0	10 8.2	21 17.2	45 36.9	46 37.7	-
答えたくない	4 100.0	-	-	2 50.0	2 50.0	-
②セクハラ行為は受ける側にも問題がある						
合 計	253 100.0	4 1.6	22 8.7	101 39.9	126 49.8	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	10 7.9	49 38.6	66 52.0	-
女性	122 100.0	2 1.6	11 9.0	50 41.0	59 48.4	-
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-
③少々のセクハラにいちいち目くらを立てるべきではない						
合 計	253 100.0	3 1.2	28 11.1	116 45.8	104 41.1	2 0.8
性別. . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	8 6.3	61 48.0	54 42.5	2 1.6
女性	122 100.0	1 0.8	19 15.6	53 43.4	49 40.2	-
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-
④相手が女性か男性かによって仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない						
合 計	253 100.0	3 1.2	48 19.0	103 40.7	98 38.7	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	23 18.1	50 39.4	51 40.2	1 0.8
女性	122 100.0	1 0.8	23 18.9	53 43.4	45 36.9	-
答えたくない	4 100.0	-	2 50.0	-	2 50.0	-
⑤勘違いまたは悪意によるセクハラのえん罪が発生することが心配である						
合 計	253 100.0	33 13.0	127 50.2	72 28.5	19 7.5	2 0.8
性別. . . . . 男性	127 100.0	21 16.5	64 50.4	31 24.4	11 8.7	-
女性	122 100.0	11 9.0	61 50.0	40 32.8	8 6.6	2 1.6
答えたくない	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-

「セクハラに関する意見」の結果から、総じて性別による意見の相違はあまり見られなかった。

「勘違いまたは悪意によるセクハラのえん罪が発生することが心配である」について、職員では「強くそう思う」、「ややそう思う」が、性別、年齢、勤続年数では全ての層で半数以上がそう感じている。職位でも全ての層で半数以上がそう感じている。

附属学校園教員でも「強くそう思う」、「ややそう思う」が、勤続年数では6～30年未満で66%～100%となっている。



問5-3. 関係者から受けたハラスメント

	件数	受けたことがある	見たたり聞いたたりしたことがある	相談を受けたことがある	いづれもない	無回答
①容姿・体型・服装・年齢・化粧などについて繰り返し話題にする						
合計	253 100.0	23 9.1	47 18.6	4 1.6	180 71.1	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	8 6.3	24 18.9	1 0.8	94 74.0	-
女性	122 100.0	15 12.3	20 16.4	3 2.5	85 69.7	-
答えたくない	4 100.0	-	3 75.0	-	1 25.0	-
②性的な話を聞かされる						
合計	253 100.0	10 4.0	40 15.8	5 2.0	200 79.1	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	4 3.1	23 18.1	4 3.1	98 77.2	-
女性	122 100.0	6 4.9	16 13.1	1 0.8	99 81.1	1 0.8
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	-	3 75.0	-
③気軽に身体に触られる						
合計	253 100.0	9 3.6	14 5.5	3 1.2	227 89.7	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	10 7.9	-	115 90.6	-
女性	122 100.0	7 5.7	4 3.3	3 2.5	108 88.5	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
④胸、お尻、脚などの身体の一部を見つめられる						
合計	253 100.0	1 0.4	14 5.5	1 0.4	237 93.7	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	-	8 6.3	-	119 93.7	-
女性	122 100.0	1 0.8	6 4.9	1 0.8	114 93.4	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑤個人を中傷するような（性的なものも含む）うわさを流される						
合計	253 100.0	15 5.9	30 11.9	6 2.4	209 82.6	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	7 5.5	21 16.5	3 2.4	100 78.7	-
女性	122 100.0	8 6.6	9 7.4	3 2.5	105 86.1	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑥食事やデートにしつこく誘われる						
合計	253 100.0	8 3.2	17 6.7	6 2.4	222 87.7	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	-	9 7.1	3 2.4	115 90.6	-
女性	122 100.0	8 6.6	7 5.7	3 2.5	104 85.2	-
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	-	3 75.0	-
⑦酔って抱きつかれたり、触られたりする						
合計	253 100.0	6 2.4	14 5.5	1 0.4	232 91.7	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	1 0.8	10 7.9	-	116 91.3	-
女性	122 100.0	5 4.1	4 3.3	1 0.8	112 91.8	-
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-

	件数	受けたことがある	見たがり聞いたりしたことがある	相談を受けたことがある	いずれもない	無回答
⑧お酌を強要される						
合計	253 100.0	12 4.7	8 3.2	2 0.8	230 90.9	1 0.4
性別 . . . . . 男性	127 100.0	3 2.4	5 3.9	1 0.8	118 92.9	-
女性	122 100.0	8 6.6	3 2.5	1 0.8	109 89.3	1 0.8
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑨出張への同行を強要されたり、出張先で不必要に自室に呼ばれたりする						
合計	253 100.0	1 0.4	2 0.8	2 0.8	247 97.6	1 0.4
性別 . . . . . 男性	127 100.0	-	1 0.8	1 0.8	125 98.4	-
女性	122 100.0	-	1 0.8	1 0.8	119 97.5	1 0.8
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑩不快な内容の電話、手紙、メールを個人的に送られる						
合計	253 100.0	16 6.3	18 7.1	4 1.6	215 85.0	1 0.4
性別 . . . . . 男性	127 100.0	4 3.1	11 8.7	2 1.6	110 86.6	1 0.8
女性	122 100.0	11 9.0	7 5.7	2 1.6	102 83.6	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑪不快感をおぼえるような性別による決めつけや役割の強要がある						
合計	253 100.0	13 5.1	22 8.7	3 1.2	218 86.2	-
性別 . . . . . 男性	127 100.0	2 1.6	11 8.7	1 0.8	113 89.0	-
女性	122 100.0	10 8.2	11 9.0	2 1.6	102 83.6	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑫差別的な発言や扱いを受ける						
合計	253 100.0	21 8.3	32 12.6	3 1.2	202 79.8	-
性別 . . . . . 男性	127 100.0	5 3.9	19 15.0	1 0.8	105 82.7	-
女性	122 100.0	15 12.3	13 10.7	2 1.6	94 77.0	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑬望まない性的関係を強要される						
合計	253 100.0	2 0.8	-	2 0.8	247 97.6	2 0.8
性別 . . . . . 男性	127 100.0	-	-	1 0.8	125 98.4	1 0.8
女性	122 100.0	2 1.6	-	1 0.8	118 96.7	1 0.8
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑭人前で罵倒、叱責される						
合計	253 100.0	39 15.4	58 22.9	5 2.0	160 63.2	-
性別 . . . . . 男性	127 100.0	21 16.5	27 21.3	2 1.6	82 64.6	-
女性	122 100.0	17 13.9	31 25.4	3 2.5	75 61.5	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-

	件数	受けたことがある	見たり聞いたりしたことがある	相談を受けたことがある	いずれもない	無回答
⑮人間関係からの切り離し						
合計	253 100.0	14 5.5	30 11.9	5 2.0	207 81.8	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	4 3.1	18 14.2	2 1.6	103 81.1	1 0.8
女性	122 100.0	9 7.4	12 9.8	3 2.5	101 82.8	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑯過大な要求あるいは過小な要求を受ける						
合計	253 100.0	30 11.9	24 9.5	4 1.6	201 79.4	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	11 8.7	14 11.0	1 0.8	105 82.7	1 0.8
女性	122 100.0	18 14.8	10 8.2	3 2.5	93 76.2	-
答えたくない	4 100.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-
⑰物を投げつける、小突かれるなど、身体的な暴力を受ける						
合計	253 100.0	3 1.2	14 5.5	2 0.8	236 93.3	-
性別. . . . . 男性	127 100.0	3 2.4	7 5.5	1 0.8	118 92.9	-
女性	122 100.0	-	6 4.9	1 0.8	115 94.3	-
答えたくない	4 100.0	-	1 25.0	-	3 75.0	-
⑱まちぶせされたり、つきまとわれたりする						
合計	253 100.0	3 1.2	12 4.7	2 0.8	235 92.9	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	-	7 5.5	1 0.8	119 93.7	-
女性	122 100.0	3 2.5	5 4.1	1 0.8	112 91.8	1 0.8
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-
⑲要求に応じないと報復がある、または要求に応じれば対価があると思わされる						
合計	253 100.0	11 4.3	13 5.1	4 1.6	226 89.3	1 0.4
性別. . . . . 男性	127 100.0	6 4.7	8 6.3	2 1.6	112 88.2	-
女性	122 100.0	5 4.1	5 4.1	2 1.6	110 90.2	1 0.8
答えたくない	4 100.0	-	-	-	4 100.0	-

「関係者から受けたハラスメント」の結果から、総じて女性が被害を受ける割合が高くなっている。項目別に見ると、「個人を中傷するような（性的なものも含む）うわさを流される」について、附属学校園教員では「受けたことがある」が勤続年数では20～30年未満で100%、「見たり聞いたりしたことがある」が50.0%となっている。

「不快感をおぼえるような性別による決めつけや役割の強要がある」について、附属学校園教員では「見たり聞いたりしたことがある」が勤続年数20～30年未満で100%となっている。

「人前で罵倒、叱責される」について、職員では「見たり聞いたりしたことがある」が年齢では30代で30.0%、勤続年数6～20年未満、30年以上で31.0%～32.6%となっている。職位では係長相当職で「見たり聞いたりしたことがある」が37.5%となっている。

### 3. 学生

#### I. 回答者属性

(N=1, 213)

##### ・性別

	N (人数)	%
女性	597	49.2%
男性	585	48.2%
その他	16	1.3%
答えたくない	15	1.2%

##### ・年齢

	N (人数)	%
20歳未満	382	31.5%
20～25歳未満	704	58.0%
25～30歳未満	57	4.7%
30歳以上	70	5.8%

##### ・学年

	N (人数)	%
1年生	333	27.5%
2年生	233	19.2%
3年生	173	14.3%
4年生	229	18.9%
大学院生 (修士課程)	197	16.2%
大学院生 (博士課程)	46	3.8%
研究生	2	0.2%
その他	0	0.0%

##### ・所属

	N (人数)	%
教養学部	157	12.9%
経済学部	228	18.8%
教育学部	319	26.3%
理学部	130	10.7%
工学部	149	12.3%
人文社会科学研究科 (学際系)	38	3.1%
人文社会科学研究科 (経済系)	40	3.3%
教育学研究科	28	2.3%
理工学研究科	124	10.2%

##### ・出身高校

	N (人数)	%
公立で男女共学	774	63.8%
公立で男子校	86	7.1%

公立で女子校	92	7.6%
私立で男女共学	179	14.8%
私立で男子校	30	2.5%
私立で女子校	41	3.4%
その他	11	0.9%

・日本国籍の有無

	N (人数)	%
日本国籍をもっている	1122	92.5%
日本国籍をもっていない	91	7.5%

## Ⅱ. 男女共同参画・ジェンダー平等・ダイバーシティに関する学習機会

問7. 埼玉大学で、男女共同参画・ジェンダー平等・ダイバーシティに関する内容について学んだことはありますか

	件数	ダ メ グ 女 平 等 に つ い て	性 の 多 様 性 に つ い て	い 手 デ ー ト か ら の D V 交 渉 に つ い て	メ セ ン ジ ン グ ル ハ ラ ス に つ い て	性 暴 力 に つ い て	健 康 の か か わ る 身 体 に つ い て	人 権 が い ち が い な い と い う 差 別 に つ い て	ス ア カ デ ミ ック ハ ラ ス に つ い て	そ の 他	な い れ も 学 ん だ こ と が	無 回 答
合 計	1213 100.0	693 57.1	565 46.6	572 47.2	324 26.7	306 25.2	263 21.7	368 30.3	201 16.6	5 0.4	266 21.9	5 0.4
性別. . . . . 女性	597 100.0	391 65.5	329 55.1	324 54.3	167 28.0	171 28.6	153 25.6	223 37.4	93 15.6	1 0.2	94 15.7	-
男性	585 100.0	279 47.7	219 37.4	227 38.8	142 24.3	122 20.9	96 16.4	132 22.6	95 16.2	4 0.7	169 28.9	5 0.9
その他	16 100.0	11 68.8	9 56.3	11 68.8	7 43.8	6 37.5	7 43.8	5 31.3	5 31.3	-	1 6.3	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	8 53.3	10 66.7	8 53.3	7 46.7	7 46.7	8 53.3	8 53.3	-	2 13.3	-
学年等. . . . . 1年生	333 100.0	135 40.5	100 30.0	129 38.7	49 14.7	54 16.2	33 9.9	68 20.4	25 7.5	-	101 30.3	3 0.9
2年生	233 100.0	165 70.8	135 57.9	135 57.9	83 35.6	89 38.2	73 31.3	101 43.3	47 20.2	1 0.4	29 12.4	-
3年生	173 100.0	122 70.5	105 60.7	115 66.5	67 38.7	66 38.2	61 35.3	63 36.4	29 16.8	1 0.6	19 11.0	-
4年生	229 100.0	166 72.5	144 62.9	157 68.6	81 35.4	72 31.4	68 29.7	87 38.0	48 21.0	-	18 7.9	1 0.4
大学院生 (修士課程)	197 100.0	96 48.7	77 39.1	35 17.8	42 21.3	24 12.2	27 13.7	43 21.8	45 22.8	3 1.5	64 32.5	1 0.5
大学院生 (博士課程)	46 100.0	7 15.2	3 6.5	1 2.2	2 4.3	1 2.2	1 2.2	4 8.7	6 13.0	-	35 76.1	-
研究生	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	2 100.0	1 50.0	-	-	-
所属. . . . . 教養学部	157 100.0	98 62.4	82 52.2	91 58.0	32 20.4	35 22.3	23 14.6	61 38.9	29 18.5	-	17 10.8	1 0.6
経済学部	228 100.0	97 42.5	54 23.7	94 41.2	39 17.1	37 16.2	27 11.8	40 17.5	21 9.2	-	69 30.3	-
教育学部	319 100.0	267 83.7	250 78.4	224 70.2	139 43.6	150 47.0	149 46.7	183 57.4	70 21.9	1 0.3	12 3.8	1 0.3
理学部	130 100.0	61 46.9	51 39.2	60 46.2	29 22.3	28 21.5	18 13.8	23 17.7	15 11.5	-	38 29.2	-
工学部	149 100.0	70 47.0	53 35.6	70 47.0	44 29.5	33 22.1	20 13.4	17 11.4	19 12.8	1 0.7	38 25.5	1 0.7
人文社会科学研究科 (学際系)	38 100.0	19 50.0	14 36.8	4 10.5	8 21.1	2 5.3	4 10.5	12 31.6	10 26.3	2 5.3	11 28.9	-
人文社会科学研究科 (経済系)	40 100.0	9 22.5	2 5.0	1 2.5	2 5.0	1 2.5	2 5.0	2 5.0	4 10.0	-	26 65.0	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	20 71.4	21 75.0	11 39.3	12 42.9	11 39.3	11 39.3	16 57.1	9 32.1	-	4 14.3	1 3.6
理工学研究科	124 100.0	52 41.9	38 30.6	17 13.7	19 15.3	9 7.3	9 7.3	14 11.3	24 19.4	1 0.8	51 41.1	-

男性よりも女性の方が学んだ経験の率が高く（アカデミック・ハラスメントを除く）、最も学習経験が高い内容は男女平等・ジェンダー平等についてであるが、女性の6割強、男性の5割弱に留まっている。次いで性の多様性、デートDVなどが半数弱、その他は3割弱の学習経験率である。その他・答えたくない人の学習経験率は女性以上に高く、一方、どれも学んだことがない男性は約3割にのぼる。学部2～4年生はジェンダー平等など3項目の学習経験率は6～7割、それ以外は4割弱であるが、1年生はそれぞれ3～4割、1～2割に留まる。院生は学習経験率が低い。教育学部が高い学習経験率で、次いで教養学部。経済、理学、工学はジェンダー平等でも半数に届かない。

### Ⅲ. セクハラ・デートDV等の実態・認識

#### 問13. セクハラに関する意見

	件数	そう思う	そう思う気持ちもある	そうは思わない	どちらともいえない	無回答
①性的なジョークや話題を規制すると人間関係が窮屈になる						
合計	1213 100.0	139 11.5	366 30.2	640 52.8	62 5.1	6 0.5
性別. . . . . 女性	597 100.0	66 11.1	157 26.3	344 57.6	27 4.5	3 0.5
男性	585 100.0	69 11.8	201 34.4	278 47.5	34 5.8	3 0.5
その他	16 100.0	1 6.3	6 37.5	9 56.3	-	-
答えたくない	15 100.0	3 20.0	2 13.3	9 60.0	1 6.7	-
②セクハラ行為は受ける側にも問題がある						
合計	1213 100.0	23 1.9	142 11.7	952 78.5	90 7.4	6 0.5
性別. . . . . 女性	597 100.0	11 1.8	66 11.1	483 80.9	34 5.7	3 0.5
男性	585 100.0	12 2.1	73 12.5	445 76.1	52 8.9	3 0.5
その他	16 100.0	-	1 6.3	13 81.3	2 12.5	-
答えたくない	15 100.0	-	2 13.3	11 73.3	2 13.3	-
③少々のセクハラにいちいち目くじらを立てるべきではない						
合計	1213 100.0	43 3.5	268 22.1	780 64.3	114 9.4	8 0.7
性別. . . . . 女性	597 100.0	15 2.5	120 20.1	408 68.3	50 8.4	4 0.7
男性	585 100.0	27 4.6	146 25.0	350 59.8	59 10.1	3 0.5
その他	16 100.0	-	1 6.3	11 68.8	3 18.8	1 6.3
答えたくない	15 100.0	1 6.7	1 6.7	11 73.3	2 13.3	-
④相手が女性か男性かによって、仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない						
合計	1213 100.0	91 7.5	327 27.0	696 57.4	87 7.2	12 1.0
性別. . . . . 女性	597 100.0	30 5.0	154 25.8	371 62.1	35 5.9	7 1.2
男性	585 100.0	60 10.3	168 28.7	303 51.8	49 8.4	5 0.9
その他	16 100.0	-	2 12.5	12 75.0	2 12.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	3 20.0	10 66.7	1 6.7	-
⑤勘違い又は悪意によるセクハラへのえん罪が発生することが心配である						
合計	1213 100.0	465 38.3	535 44.1	137 11.3	70 5.8	6 0.5
性別. . . . . 女性	597 100.0	152 25.5	307 51.4	89 14.9	47 7.9	2 0.3
男性	585 100.0	301 51.5	219 37.4	41 7.0	20 3.4	4 0.7
その他	16 100.0	5 31.3	6 37.5	5 31.3	-	-
答えたくない	15 100.0	7 46.7	3 20.0	2 13.3	3 20.0	-

いずれの性別でも、どのような行為がセクハラであるかを「よく知っている」率は1割未満で非常に低い、「ある程度知っている」が7割前後で、女性の方が比較的高い。学年が高くなると「よく知っている」の率が高くなる。

「①性的なジョークや話題を規制すると人間関係が窮屈になる」については、いずれも「そうは思わない」が最も多く 5~6 割だが、男性は他の属性よりも約 10 ポイント低い。

問 14. デートDVについて

	件数	DVだ と思う	DVだ と思わ ない	ど ち ら と も い え な い	わ か ら な い	無 回 答
①携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする						
合 計	1213 100.0	394 32.5	369 30.4	354 29.2	92 7.6	4 0.3
性別. . . . . 女性	597 100.0	216 36.2	163 27.3	171 28.6	47 7.9	-
男性	585 100.0	163 27.9	205 35.0	173 29.6	40 6.8	4 0.7
その他	16 100.0	9 56.3	-	7 43.8	-	-
答えたくない	15 100.0	6 40.0	1 6.7	3 20.0	5 33.3	-
②すぐに電話に出なかったり、メールを返信しないと怒る						
合 計	1213 100.0	619 51.0	262 21.6	277 22.8	50 4.1	5 0.4
性別. . . . . 女性	597 100.0	334 55.9	100 16.8	144 24.1	18 3.0	1 0.2
男性	585 100.0	265 45.3	158 27.0	128 21.9	30 5.1	4 0.7
その他	16 100.0	10 62.5	1 6.3	5 31.3	-	-
答えたくない	15 100.0	10 66.7	3 20.0	-	2 13.3	-
③思い通りにならないと、どなったり、おどしたりする						
合 計	1213 100.0	1063 87.6	56 4.6	65 5.4	22 1.8	7 0.6
性別. . . . . 女性	597 100.0	559 93.6	16 2.7	13 2.2	6 1.0	3 0.5
男性	585 100.0	476 81.4	40 6.8	51 8.7	14 2.4	4 0.7
その他	16 100.0	15 93.8	-	1 6.3	-	-
答えたくない	15 100.0	13 86.7	-	-	2 13.3	-
④物を壊したり、投げたりする						
合 計	1213 100.0	1143 94.2	19 1.6	30 2.5	15 1.2	6 0.5
性別. . . . . 女性	597 100.0	582 97.5	3 0.5	9 1.5	2 0.3	1 0.2
男性	585 100.0	533 91.1	16 2.7	19 3.2	12 2.1	5 0.9
その他	16 100.0	15 93.8	-	1 6.3	-	-
答えたくない	15 100.0	13 86.7	-	1 6.7	1 6.7	-
⑤何を言っても無視する						
合 計	1213 100.0	794 65.5	139 11.5	230 19.0	45 3.7	5 0.4
性別. . . . . 女性	597 100.0	422 70.7	49 8.2	111 18.6	15 2.5	-
男性	585 100.0	349 59.7	87 14.9	116 19.8	28 4.8	5 0.9
その他	16 100.0	11 68.8	2 12.5	2 12.5	1 6.3	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7	-

	件数	DV だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	わ か ら な い	無 回 答
⑥バカにしたり、ののしったりする						
合 計	1213 100.0	966 79.6	78 6.4	137 11.3	25 2.1	7 0.6
性別. . . . . 女性	597 100.0	503 84.3	22 3.7	61 10.2	10 1.7	1 0.2
男性	585 100.0	437 74.7	55 9.4	74 12.6	14 2.4	5 0.9
その他	16 100.0	14 87.5	-	2 12.5	-	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	1 6.7	-	1 6.7	1 6.7
⑦「別れたら死ぬ」といっておどす						
合 計	1213 100.0	1014 83.6	75 6.2	85 7.0	34 2.8	5 0.4
性別. . . . . 女性	597 100.0	532 89.1	23 3.9	28 4.7	14 2.3	-
男性	585 100.0	458 78.3	50 8.5	54 9.2	18 3.1	5 0.9
その他	16 100.0	12 75.0	-	3 18.8	1 6.3	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	2 13.3	-	1 6.7	-
⑧いつも一緒にいることを強要する						
合 計	1213 100.0	867 71.5	115 9.5	185 15.3	39 3.2	7 0.6
性別. . . . . 女性	597 100.0	463 77.6	40 6.7	79 13.2	13 2.2	2 0.3
男性	585 100.0	378 64.6	75 12.8	102 17.4	25 4.3	5 0.9
その他	16 100.0	14 87.5	-	2 12.5	-	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	-	2 13.3	1 6.7	-
⑨性的な動画・写真を要求する						
合 計	1213 100.0	1072 88.4	38 3.1	63 5.2	31 2.6	9 0.7
性別. . . . . 女性	597 100.0	552 92.5	12 2.0	21 3.5	10 1.7	2 0.3
男性	585 100.0	491 83.9	26 4.4	41 7.0	20 3.4	7 1.2
その他	16 100.0	15 93.8	-	1 6.3	-	-
答えたくない	15 100.0	14 93.3	-	-	1 6.7	-

「①携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」について、女性 36.2%、その他の半数、答えたくないの 4 割が「DV だと思う」で最も多く、男性では「DV だと思わない」が 35.0%で最も多い。「どちらともいえない」も男女の 3 割弱で、意見が割れている。

「②すぐに電話に出なかったり、メールを返信しないと怒る」について、男性の「DV だと思う」は半数に届かない一方、女性よりもその他、答えたくないの「DV だと思う」は高い。

「⑤何を言っても無視する」については、女性、その他の 7 割、答えたくないの 8 割、男性の 6 割が「DV だと思う」と答え男女差がある。男女の 2 割が「どちらとも言えない」と答えている。

「⑧いつも一緒にいることを強要する」について、女性の 8 割弱、男性の 6 割強が「DV だと思う」と答え、女性の 6.7%、男性の 12.8%が「DV だと思わない」と答えており、男女差がある。



問15. デートDVに関する考え方

	件数	そう思う	そう思う気持ちもある	そうは思わない	どちらともいえない	無回答
①怒らせるようなことをした場合は、DVがおこっても仕方ない						
合計	1213 100.0	34 2.8	185 15.3	912 75.2	75 6.2	7 0.6
性別. . . . . 女性	597 100.0	11 1.8	69 11.6	495 82.9	21 3.5	1 0.2
男性	585 100.0	22 3.8	113 19.3	395 67.5	50 8.5	5 0.9
その他	16 100.0	-	1 6.3	13 81.3	2 12.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	2 13.3	9 60.0	2 13.3	1 6.7
②相手の愛情を確かめるためにDVがおこることもある						
合計	1213 100.0	61 5.0	202 16.7	868 71.6	75 6.2	7 0.6
性別. . . . . 女性	597 100.0	30 5.0	97 16.2	439 73.5	31 5.2	-
男性	585 100.0	28 4.8	95 16.2	413 70.6	42 7.2	7 1.2
その他	16 100.0	1 6.3	5 31.3	9 56.3	1 6.3	-
答えたくない	15 100.0	2 13.3	5 33.3	7 46.7	1 6.7	-
③相手が自分の思い通りにならないときにDVがおこるのは仕方ない						
合計	1213 100.0	13 1.1	51 4.2	1094 90.2	39 3.2	16 1.3
性別. . . . . 女性	597 100.0	8 1.3	14 2.3	562 94.1	9 1.5	4 0.7
男性	585 100.0	3 0.5	36 6.2	507 86.7	27 4.6	12 2.1
その他	16 100.0	-	1 6.3	12 75.0	3 18.8	-
答えたくない	15 100.0	2 13.3	-	13 86.7	-	-
④DVの加害者はいつも男とは限らない						
合計	1213 100.0	996 82.1	157 12.9	24 2.0	30 2.5	6 0.5
性別. . . . . 女性	597 100.0	493 82.6	72 12.1	15 2.5	16 2.7	1 0.2
男性	585 100.0	473 80.9	84 14.4	9 1.5	14 2.4	5 0.9
その他	16 100.0	15 93.8	1 6.3	-	-	-
答えたくない	15 100.0	15 100.0	-	-	-	-

「①怒らせるようなことをした場合は、DVがおこっても仕方ない」について、女性、その他の「そうは思わない」が8割強、男性、答えたくないの「そう思わない」が6割台強と男女差が見られる。また、男性、答えたくないの「そう思う気持ちもある」が他よりも高い。

問16-1. 埼玉大学での経験有無／女子が優遇される

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
<b>合計</b>	<b>1213</b> 100.0	<b>77</b> 6.3	<b>116</b> 9.6	<b>1010</b> 83.3	<b>10</b> 0.8
性別. . . . . 女性	597 100.0	38 6.4	55 9.2	500 83.8	4 0.7
男性	585 100.0	33 5.6	59 10.1	487 83.2	6 1.0
その他	16 100.0	3 18.8	-	13 81.3	-
答えたくない	15 100.0	3 20.0	2 13.3	10 66.7	-
所属. . . . . 教養学部	157 100.0	8 5.1	7 4.5	142 90.4	-
経済学部	228 100.0	12 5.3	14 6.1	202 88.6	-
教育学部	319 100.0	31 9.7	35 11.0	249 78.1	4 1.3
理学部	130 100.0	3 2.3	17 13.1	108 83.1	2 1.5
工学部	149 100.0	6 4.0	13 8.7	130 87.2	-
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	-	1 2.6	37 97.4	-
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	2 5.0	2 5.0	35 87.5	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	2 7.1	6 21.4	20 71.4	-
理工学研究科	124 100.0	13 10.5	21 16.9	87 70.2	3 2.4

大学内での「女子が優遇される」経験は6.3%、「見たことがある」は約10%となっており、「男子が優遇される」経験（経験あり2.3%、見たことがある5.1%）に比べ多くなっている。特に、教育学部・教育学研究科の率が高くなっている。

問16-3. 埼玉大学での経験有無／性に限らず差別的な扱いや発言を受ける

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
<b>合計</b>	<b>1213</b> 100.0	<b>46</b> 3.8	<b>88</b> 7.3	<b>1066</b> 87.9	<b>13</b> 1.1
性別. . . . . 女性	597 100.0	24 4.0	48 8.0	521 87.3	4 0.7
男性	585 100.0	18 3.1	38 6.5	520 88.9	9 1.5
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	3 20.0	1 6.7	11 73.3	-

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
学年等 . . . . . 1 年生	333 100.0	6 1.8	9 2.7	315 94.6	3 0.9
2 年生	233 100.0	12 5.2	11 4.7	210 90.1	-
3 年生	173 100.0	8 4.6	18 10.4	147 85.0	-
4 年生	229 100.0	7 3.1	16 7.0	203 88.6	3 1.3
大学院生（修士課程）	197 100.0	9 4.6	29 14.7	153 77.7	6 3.0
大学院生（博士課程）	46 100.0	4 8.7	5 10.9	36 78.3	1 2.2
研究生	2 100.0	-	-	2 100.0	-
所属 . . . . . 教養学部	157 100.0	7 4.5	9 5.7	141 89.8	-
経済学部	228 100.0	6 2.6	11 4.8	210 92.1	1 0.4
教育学部	319 100.0	13 4.1	19 6.0	284 89.0	3 0.9
理学部	130 100.0	3 2.3	7 5.4	118 90.8	2 1.5
工学部	149 100.0	4 2.7	8 5.4	137 91.9	-
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	1 2.6	6 15.8	31 81.6	-
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	-	1 2.5	37 92.5	2 5.0
教育学研究科	28 100.0	3 10.7	6 21.4	19 67.9	-
理工学研究科	124 100.0	9 7.3	21 16.9	89 71.8	5 4.0

性に限らず差別的な扱いを受けている「経験がある」と答えている学生が、3.8%、「見たことがある」としている学生は7.3%となっている。これらの率は、大学3年生と大学院生になるとさらに高くなる傾向がある。

問16-4. 埼玉大学での経験有無／セクハラと思われるような発言や行為

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
合計	1213 100.0	38 3.1	73 6.0	1091 89.9	11 0.9
性別 . . . . . 女性	597 100.0	23 3.9	33 5.5	538 90.1	3 0.5
男性	585 100.0	12 2.1	36 6.2	529 90.4	8 1.4
その他	16 100.0	2 12.5	2 12.5	12 75.0	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	2 13.3	12 80.0	-

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
年齢 . . . . . 20歳未満	382 100.0	6 1.6	9 2.4	364 95.3	3 0.8
20～25歳未満	704 100.0	25 3.6	53 7.5	619 87.9	7 1.0
25～30歳未満	57 100.0	3 5.3	5 8.8	49 86.0	-
30歳以上	70 100.0	4 5.7	6 8.6	59 84.3	1 1.4
所属 . . . . . 教養学部	157 100.0	7 4.5	9 5.7	141 89.8	-
経済学部	228 100.0	4 1.8	9 3.9	215 94.3	-
教育学部	319 100.0	10 3.1	21 6.6	283 88.7	5 1.6
理学部	130 100.0	1 0.8	7 5.4	120 92.3	2 1.5
工学部	149 100.0	4 2.7	4 2.7	141 94.6	-
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	1 2.6	7 18.4	30 78.9	-
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	-	1 2.5	38 95.0	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	3 10.7	6 21.4	19 67.9	-
理工学研究科	124 100.0	8 6.5	9 7.3	104 83.9	3 2.4

セクハラの実験数は 38 件となっており、約 14%の回答率の中でこれだけの数字が出てきたことについては重く受けとめる必要がある。

問 16-5. 埼玉大学での経験有無/適切な指導を受けられない

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
合計	1213 100.0	79 6.5	71 5.9	1049 86.5	14 1.2
性別 . . . . . 女性	597 100.0	39 6.5	32 5.4	520 87.1	6 1.0
男性	585 100.0	36 6.2	37 6.3	504 86.2	8 1.4
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	3 20.0	1 6.7	11 73.3	-

「適切な指導を受けられない」という経験を持つ学生が 6.5%となっている。学部、学年による割合に大きな差はないが、回答した約 1200 人のうち 79 人が「経験がある」としている。

問16-6. 埼玉大学での経験有無／人前で人格や能力を否定される

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
合計	1213 100.0	50 4.1	110 9.1	1039 85.7	14 1.2
性別. . . . . 女性	597 100.0	27 4.5	46 7.7	519 86.9	5 0.8
男性	585 100.0	22 3.8	58 9.9	496 84.8	9 1.5
その他	16 100.0	1 6.3	2 12.5	13 81.3	-
答えたくない	15 100.0	-	4 26.7	11 73.3	-
所属. . . . . 教養学部	157 100.0	3 1.9	9 5.7	143 91.1	2 1.3
経済学部	228 100.0	5 2.2	21 9.2	201 88.2	1 0.4
教育学部	319 100.0	18 5.6	22 6.9	273 85.6	6 1.9
理学部	130 100.0	4 3.1	11 8.5	113 86.9	2 1.5
工学部	149 100.0	5 3.4	9 6.0	135 90.6	-
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	1 2.6	7 18.4	30 78.9	-
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	1 2.5	1 2.5	37 92.5	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	2 7.1	6 21.4	20 71.4	-
理工学研究科	124 100.0	11 8.9	24 19.4	87 70.2	2 1.6

「人前で人格や能力を否定される」経験は、大学院生の経験率が高い傾向がある。「見たことがある」と答える率も大学院段階になると教育学研究科、理工学研究科ともに約20%となっている。この傾向は、率は少なくなっているが、「問16-7. 執拗に説諭される（メールなども含む）」の結果にも見られる。

問16. 埼玉大学での経験有無

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
⑧単位を出さないとおどされる					
合計	1213 100.0	26 2.1	41 3.4	1135 93.6	11 0.9
性別. . . . . 女性	597 100.0	12 2.0	20 3.4	562 94.1	3 0.5
男性	585 100.0	13 2.2	19 3.2	545 93.2	8 1.4
その他	16 100.0	1 6.3	-	15 93.8	-
答えたくない	15 100.0	-	2 13.3	13 86.7	-

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
⑨研究内容が制限される					
合計	1213 100.0	17 1.4	27 2.2	1156 95.3	13 1.1
性別. . . . . 女性	597 100.0	11 1.8	10 1.7	571 95.6	5 0.8
男性	585 100.0	5 0.9	16 2.7	556 95.0	8 1.4
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	-	-	15 100.0	-

「単位を出さないとおどされる」(26 件)、「研究内容が制限される」(17 件)は、率としては少ないが、実際に経験している学生が存在する。「研究内容の制限」は件数、率とも大学院生が高くなっている。

問 1 6 - 1 2. 埼玉大学での経験有無／個人的な付き合い(デートや恋愛、性的な関係)を求められる

	件数	経験がある	見たことがある	い経験も見たこともない	無回答
合計	1213 100.0	9 0.7	17 1.4	1172 96.6	15 1.2
性別. . . . . 女性	597 100.0	5 0.8	9 1.5	578 96.8	5 0.8
男性	585 100.0	4 0.7	8 1.4	563 96.2	10 1.7
その他	16 100.0	-	-	16 100.0	-
答えたくない	15 100.0	-	-	15 100.0	-

「個人的な付き合いを求められる」経験が、経済学部、教育学部、工学部、教育学研究科、理工学研究科に計 9 件みられる。

問 1 9 - 1. 学生同士での経験有無／性別による役割がある

	件数	経験がある	見たたり聞いたり	いずれもない	無回答
合計	1213 100.0	91 7.5	74 6.1	1035 85.3	13 1.1
性別. . . . . 女性	597 100.0	55 9.2	41 6.9	498 83.4	3 0.5
男性	585 100.0	31 5.3	31 5.3	513 87.7	10 1.7
その他	16 100.0	2 12.5	2 12.5	12 75.0	-
答えたくない	15 100.0	3 20.0	-	12 80.0	-

問20. 具体的にはどのような役割ですか

	件数	リーダーは男性である	料理の取り分けやコンパの後片付けなどは女性がやる	マネージャーは女性である	重い荷物を持つのは男性である	コンパ代は男性の方が多く払われる	女性が料理やお弁当をつくる	その他	無回答
合計	165 100.0	66 40.0	50 30.3	36 21.8	100 60.6	48 29.1	27 16.4	18 10.9	4 2.4
性別. . . . . 女性	96 100.0	40 41.7	38 39.6	27 28.1	55 57.3	22 22.9	19 19.8	10 10.4	3 3.1
男性	62 100.0	21 33.9	10 16.1	8 12.9	40 64.5	23 37.1	8 12.9	7 11.3	1 1.6
その他	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	3 75.0	-	-	-	-
答えたくない	3 100.0	3 100.0	-	-	2 66.7	3 100.0	-	1 33.3	-

問19-2. 学生同士での経験有無/性暴力、性的ないやがらせやいじめ (男性に対するものや同性同士も含む)

	件数	経験がある	見たり聞いたりしたことがある	いずれもない	無回答
合計	1213 100.0	12 1.0	33 2.7	1156 95.3	12 1.0
性別. . . . . 女性	597 100.0	5 0.8	15 2.5	574 96.1	3 0.5
男性	585 100.0	5 0.9	14 2.4	557 95.2	9 1.5
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	3 20.0	11 73.3	-

学生同士の「性暴力、性的ないやがらせやいじめ」の経験が12件となっている。被害者の性別は女性に偏っているわけではない。「問19-3. 水着やハダカになるよう強要される」経験は、女性1名、男性4名と男性の被害者多くなっている。どのような場で起こるのかの調査が必要かもしれない。

さらに、「問19-4. 集団で風俗(買春)に行くことを誘われる」経験も件数は少ないが、男子が4件となっており、「問19-5. 風俗に行った(買春した)話を聞かされる」経験は、女子15件、男子41件となっている。

問19-6. 学生同士での経験有無/容姿・体型・服装などについて繰り返し話題にされる

	件数	経験がある	見たり聞いたりしたことがある	いずれもない	無回答
合計	1213 100.0	80 6.6	117 9.6	1000 82.4	16 1.3
性別. . . . . 女性	597 100.0	46 7.7	61 10.2	485 81.2	5 0.8
男性	585 100.0	33 5.6	53 9.1	488 83.4	11 1.9
その他	16 100.0	1 6.3	-	15 93.8	-
答えたくない	15 100.0	-	3 20.0	12 80.0	-

「容姿・体型・服装などについて繰り返し話題にされる」経験は80件（女子46件、男子33件）におよび、見たことがあると答えたものは100名を超えている。調査では男子の被害者がいることも確認できる。

問19-7. 学生同士での経験有無／自分の意に沿わず気軽に身体に触られる（同性同士も含む）

	件数	経験がある	見たがりあ聞いたたりした	いずれもない	無回答
合計	1213 100.0	56 4.6	59 4.9	1087 89.6	11 0.9
性別. . . . . 女性	597 100.0	35 5.9	32 5.4	527 88.3	3 0.5
男性	585 100.0	20 3.4	27 4.6	530 90.6	8 1.4
その他	16 100.0	1 6.3	-	15 93.8	-
答えたくない	15 100.0	-	-	15 100.0	-

「自分の意に沿わず気軽に身体に触られる（同性同士も含む）」経験は56件におよび、そのうち3分の1は男性が被害者となっている。

問19-11. 学生同士での経験有無／酔って抱きつかれたり、触られたりする

	件数	経験がある	見たがりあ聞いたたりした	いずれもない	無回答
合計	1213 100.0	65 5.4	85 7.0	1051 86.6	12 1.0
性別. . . . . 女性	597 100.0	40 6.7	45 7.5	508 85.1	4 0.7
男性	585 100.0	23 3.9	38 6.5	516 88.2	8 1.4
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	1 6.7	13 86.7	-
学年等. . . . . 1年生	333 100.0	2 0.6	4 1.2	322 96.7	5 1.5
2年生	233 100.0	10 4.3	23 9.9	199 85.4	1 0.4
3年生	173 100.0	15 8.7	18 10.4	138 79.8	2 1.2
4年生	229 100.0	27 11.8	21 9.2	179 78.2	2 0.9
大学院生（修士課程）	197 100.0	10 5.1	14 7.1	171 86.8	2 1.0
大学院生（博士課程）	46 100.0	1 2.2	5 10.9	40 87.0	-
研究生	2 100.0	-	-	2 100.0	-



	件数	経験がある	見たがり聞いたたりした	いずれもない	無回答
出身高校. . . . . 共学	953 100.0	54 5.7	66 6.9	822 86.3	11 1.2
男子校	116 100.0	4 3.4	8 6.9	103 88.8	1 0.9
女子校	133 100.0	7 5.3	10 7.5	116 87.2	-
その他	11 100.0	-	1 9.1	10 90.9	-

「酔って抱きつかれたり、触られたりする」経験は 65 件で、女性の経験率は男性の 2 倍となっており、共学出身者に多い。また、学年が上がるにつれて件数が増加している。

問 19 - 13. 学生同士での経験有無／性別による決めつけや差別的な発言

	件数	経験がある	見たがり聞いたたりした	いずれもない	無回答
<b>合計</b>	<b>1213</b> <b>100.0</b>	<b>49</b> <b>4.0</b>	<b>61</b> <b>5.0</b>	<b>1090</b> <b>89.9</b>	<b>13</b> <b>1.1</b>
性別. . . . . 女性	597 100.0	36 6.0	36 6.0	521 87.3	4 0.7
男性	585 100.0	11 1.9	21 3.6	544 93.0	9 1.5
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	3 20.0	11 73.3	-
所属. . . . . 教養学部	157 100.0	5 3.2	10 6.4	141 89.8	1 0.6
経済学部	228 100.0	5 2.2	9 3.9	213 93.4	1 0.4
教育学部	319 100.0	20 6.3	21 6.6	273 85.6	5 1.6
理学部	130 100.0	4 3.1	6 4.6	119 91.5	1 0.8
工学部	149 100.0	7 4.7	3 2.0	137 91.9	2 1.3
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	-	3 7.9	34 89.5	1 2.6
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	-	2 5.0	37 92.5	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	3 10.7	1 3.6	24 85.7	-
理工学研究科	124 100.0	5 4.0	6 4.8	112 90.3	1 0.8

「性別による決めつけや差別的な発言」の経験は女性に多く、また、教育学部での経験率が高くなっている。教育学部においては、ジェンダー平等について学習している率も高く、他学部では認識できない状況に対する認知度が高くなっている可能性もある。

問19-14. 学生同士での経験有無／「おかま」「ホモ」「レズ」といった言葉でのからかい

	件数	経験がある	見たこと、聞いたことがある	いずれもない	無回答
<b>合計</b>	<b>1213</b> 100.0	<b>24</b> 2.0	<b>100</b> 8.2	<b>1076</b> 88.7	<b>13</b> 1.1
性別. . . . . 女性	597 100.0	5 0.8	51 8.5	538 90.1	3 0.5
男性	585 100.0	17 2.9	47 8.0	511 87.4	10 1.7
その他	16 100.0	1 6.3	1 6.3	14 87.5	-
答えたくない	15 100.0	1 6.7	1 6.7	13 86.7	-
所属. . . . . 教養学部	157 100.0	2 1.3	11 7.0	143 91.1	1 0.6
経済学部	228 100.0	6 2.6	11 4.8	209 91.7	2 0.9
教育学部	319 100.0	4 1.3	39 12.2	271 85.0	5 1.6
理学部	130 100.0	2 1.5	13 10.0	114 87.7	1 0.8
工学部	149 100.0	3 2.0	8 5.4	137 91.9	1 0.7
人文社会科学研究科（学際系）	38 100.0	-	3 7.9	35 92.1	-
人文社会科学研究科（経済系）	40 100.0	-	-	39 97.5	1 2.5
教育学研究科	28 100.0	-	1 3.6	26 92.9	1 3.6
理工学研究科	124 100.0	7 5.6	14 11.3	102 82.3	1 0.8

「おかま」「ホモ」「レズ」といった言葉でのからかいについては、直接的な経験数は少ないものの、「見たこと、聞いたことがある」と答えた学生は100名に上る。その数は特に教育学部において多くなっているが、これは、問19-13と同様、学部の中で起こっているということよりも、学習の結果、それを問題視できているという結果かもしれない。

問21. 大学生になってからアルバイトをした経験がありますか

	件数	ある	ない	無回答
<b>合計</b>	<b>1213</b> 100.0	<b>982</b> 81.0	<b>223</b> 18.4	<b>8</b> 0.7
性別. . . . . 女性	597 100.0	513 85.9	81 13.6	3 0.5
男性	585 100.0	442 75.6	139 23.8	4 0.7
その他	16 100.0	15 93.8	1 6.3	-
答えたくない	15 100.0	12 80.0	2 13.3	1 6.7

問 2 2 - 4 . アルバイト先での経験有無／セクハラと思われるような発言や行為

	件 数	経験 がある	見 た こ と が あ る	い 経験 も 見 た こ と も な い	無 回 答
合 計	982 100.0	121 12.3	95 9.7	759 77.3	7 0.7
性別. . . . . 女性	513 100.0	91 17.7	36 7.0	384 74.9	2 0.4
男性	442 100.0	24 5.4	56 12.7	358 81.0	4 0.9
その他	15 100.0	2 13.3	2 13.3	10 66.7	1 6.7
答えたくない	12 100.0	4 33.3	1 8.3	7 58.3	-

アルバイト先でのセクハラ経験率は高く、121 件、12.3%にのぼる。特に女子に多くなっていることがわかる。こうした状況に対応できるための知識やスキルについて学ぶ機会が必要である。

## おわりに

本報告書では、教員・職員・学生の回答結果のうち、特に注目される項目についてのみ抜き出した。全調査項目の結果については HP 上にアップするのでそちらで確認してほしい。本報告書の最後に、本学の課題を概観するとともに、今後どのような取り組みが必要かについてまとめる。

まず、教員・職員ともに共通していたのは、女性教員・職員の9割近くが「食事の支度」を自分で行っている一方、男性教員・職員が自分で行うと回答している割合は40%程度と半分以下である。ほかの家事や育児についても比率は異なるものの、おおむね女性教員・職員の方が担っている割合が高い。これは、前回調査と同じ傾向である。このことが、以下で述べる埼玉大学での労働実態における男女格差にも影響を及ぼしていることが示唆される。

特に職員では、残業時間は男性の方が多く職位とも関係しているだけでなく、特定の者に残業が集中している。家事の負担が少ないから残業ができる、残業をしているから家庭内での家事・育児の負担が少なくなる、の双方の関係が考えられるが、女性管理職を増やすには、職位が上がっても長時間労働とならないような工夫が求められる。また意識の面でも、男女格差の原因について、男女ともに「女性は結婚・育児等で、家庭での役割が増すから」（男性68.1%、女性77.5%）と、家庭内の負担の差が労働実態に影響を及ぼしていると認識されている。一方、女性職員が「昇進・昇格の機会に格差がある」において、「男性がやや優遇されている」「男性が優遇されている」と回答している割合が22.1%と高く、女性管理職を増やすには、職員の昇進・昇格構造を見直す必要も示唆される。そのほか、男女格差の原因として「上司や同僚に男女差別意識があるから」（男性21.2%、女性55.1%）も女性の割合が高く、特に上司の意識改革が必要とされる。

教員の労働実態の差に大きな男女差はみられなかったが、意識の面での差が浮き彫りとなった。特に、採用の条件については、男性教員で「女性が優遇されている」「女性がやや優遇されている」と答えた割合が14.8%である一方、女性教員では「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は20.8%であり、自分と異なる性別のほうが優遇されていると感じている教員が、男女ともに一定数いる。埼玉大学では、女性教員の採用比率を各学部の目標を立てているため、各教員がポジティブアクションの考え方を理解するための取り組みが必要だといえる。また、教員も昇進・昇格の機会について、女性教員が「男性が優遇されている」「男性がやや優遇されている」と答えた割合は24.5%で高い水準である。他方、男性教員では「女性が優遇されている」「女性がやや優遇されている」と答えた割合は5.5%であることから、昇進・昇格の機会では特に女性が、男女格差を強く感じている。各部局で異なっている昇進・昇格基準がジェンダー中立なものとなっているかどうか、改めて確認する必要がある。

さらに、教員・職員ともに共通していたのがハラスメントの理解についてである。教員・職員の男女ともに「勘違いまたは悪意によるセクハラのエン罪が発生することが心配である」が過半数を超えている。また、「セクシュアルハラスメントを受ける側に問題がある」と考える人もいる。こうした考えを持った人が一人でもいる組織では、被害者がセクハラ申告を控える、申告した後の2次被害が生じる可能性がある。組織全体で「セクハラとは何か」を男女ともに繰り返し学んでいく必要があるといえる。また、ハラスメント被害については「望まない性的関係を強制される」以外は、どの項目についても最低一人以上被害を受けていた。どの行為についても、本人が「受けたことがある」と回答している割合は、男性よりも女性の方が多くなっている。ハラスメント被害は1件でもあれば、重大である。セクハラに関する考えと合わせて、この被害を検討すると、以下の学問的指摘を真摯に組織として受け止め、繰り返し、組織としてセクハラは何かを学んでいく必要が

あることが浮き彫りとなる。

セクシュアルハラスメントは、しばしば「男女関係」として軽く扱われたり、冷ややかな嘲笑の対象にされたり、逆に過度にセンセーショナルな性的事件として誇張されたりしてきた。それはセクシュアルハラスメントに対する社会の理解の水準が未だ低水準にあることを表すものに他ならない。多くの対策マニュアルで見られるように、セクシュアルハラスメントに該当する行為の事例を列挙するだけでは、なぜそれが防止すべきことなのかを理解しにくい。耳慣れてきたから理解したつもりで軽んじるのではなく、セクシュアルハラスメントを根絶するためには、その本質とセクシュアルハラスメントがもたらす害について、今なお熟慮する必要がある（申、2021）。

そして、そのハラスメントとは何かを理解するための学習の内容と場も工夫する必要があることが明らかとなった。ハラスメント研修を埼玉大学で受けたことがあるかについて、教員・職員ともに勤続年数や雇用形態（有期か無期雇用か、定時出勤かどうかなど）に左右されている。着任時に雇用形態にかかわらず、ハラスメント研修を受けられるよう工夫していく必要がある。また、1度受けたから終わりではなく、ハラスメント理解が進むような内容の研修を大学として、組織的に繰り返し学んでいく場を設けていく必要がある。

学生の調査結果の特徴は、いずれの性別でも、どのような行為がセクハラであるかを「よく知っている」率は1割未満で非常に低い。「ある程度知っている」は7割前後で女性の方が比較的高く、学年が高くなると「よく知っている」率も高くなる。セクハラの実験数は38件となっており、約14%の回答率の中でこれだけの数字が出てきたことについては重く受けとめる必要がある。また、「適切な指導を受けられない」という経験を持つ学生が6.5%と、学部、学年による割合に大きな差はないが、回答した約1200人のうち79人が経験があるとしている。学生同士の「性暴力、性的ないやがらせやいじめ」の経験（12件）、「風俗に行った（買春した）話を聞かされる」経験（女子15件、男子41件）、「容姿・体型・服装などについて繰り返し話題にされる」経験（女子46件、男子33件）におよび、見たことがあると答えたものはさらに多い。教員から学生といったハラスメント防止だけでなく学生同士のハラスメント防止に向けた取り組みが必要である。また大学内だけでなく、今回の調査で初めて、アルバイト先でのセクハラ経験を聞いてみたところ、その経験割合は121件、12.3%にのぼり、特に女子学生で多い。こうした状況に対応するための知識やスキルについて学ぶ機会が必要である。

デートDVについても、「①携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」を男性では「DVだと思わない」が35%で最も多い。男女の3割弱も「どちらともいえない」となっている。「②すぐに電話に出なかったり、メールを返信しないと怒る」も、男性の「DVだと思う」は半数に届かない。埼玉大学ではデートDV防止に向けた取り組みを行ってきたが、ハラスメントの理解と同じように、繰り返し学んでいける場を工夫して作っていく必要がある。

本調査結果を受けて、すぐに着手できる取り組みもあれば、その内容を今後どのように工夫できるかを時間をかけて考えていく必要があるものもある。この調査結果をもとに労働、家庭生活、ワークライフバランス、研究、教育、大学生活といった面で、埼玉大学で働き、学ぶすべての人の多様性が尊重され、包摂される環境づくりをダイバーシティ推進室が中心になって大学全体で取り組んでいきたい。

男女共同参画調査WG、ダイバーシティ・ジェンダー平等意識啓発WGメンバーを代表して  
大学院人文社会科学部研究科(経済系)教員・金井郁

# 男女共同参画推進に関する意識・実態調査のお願い

令和2年9月23日

埼玉大学 教職員の皆様

埼玉大学ダイバーシティ推進室（旧 男女共同参画室）では、平成22年から5年ごとに「男女共同参画推進に関する意識・実態調査」を実施し、これまで第1回及び第2回調査の報告書を作成し、教職員の皆様に結果を公表するとともに、本学における男女共同参画推進に関する取り組みに反映させてきました。

本調査は、本学において、よりよい就労・研究環境を整備していくための課題を明らかにしていくために実施するものです。今回の調査結果は、前回までの調査結果を踏まえ、今後の方策の検討と実施において活用いたします。趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査の内容につきましては、個人的な属性についてもお伺いしますが、集計・分析・結果公表にあたっては、統計的な処理が行われ、個人が特定されることはありません。また調査目的以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

埼玉大学副学長（ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当）・

埼玉大学ダイバーシティ推進室長 田代 美江子

対 象 本学教職員（非常勤講師、パート教職員で本学の学生、TA・RAは除く。）

回答期限 令和2年10月20日（火）

回答方法 WEB 調査（株式会社アクロス）

該当するページからご回答ください。

- ・ 大学教員の方
- ・ 職員（附属学校園含む）の方
- ・ 附属学校園教員の方
- ・ 研究員等の方

\* 研究員等とは、特定プロジェクト研究員、研究支援者、非常勤研究員、産学官連携研究員をいう。

（回答目安時間は15分程度です）

問い合わせ先：総務部人事課教職員係 E-mail : ksyoku12@gr.saitama-u.ac.jp



- 1 男性                    2 女性                    3 その他                4 答えたくない

問1-2. あなたは、現在何歳ですか。(1つだけ選択)

- 1 10代    2 20代    3 30代    4 40代    5 50代    6 60代～

問1-3. 埼玉大学での通算した勤続年数はどのくらいですか。(1つだけ選択)

- 1 3年未満                    2 3～6年未満                    3 6～10年未満  
4 10～20年未満                    5 20～30年未満                    6 30年以上

問1-4. あなたの所属について教えてください。(1つだけ選択)

1 事務局 (各学部支援室等含む)	2 各機構・センター	3 附属学校園
4 その他 ( )		

問1-5. あなたの職位について教えてください。(1つだけ選択)

常勤	事務職員			
	1 課長相当職以上	2 課長代理相当職	3 係長相当職	4 主任・一般職員等
	5 技術職員		6 その他 ( )	
非常勤	事務補佐員・技術補佐員			
	7 期間雇用	8 パート (週30時間)	9 パート (週30時間未満)	
	10 その他 ( )			

問1-6. あなたの雇用契約期間について教えてください。(1つだけ選択)

- 1 無期雇用 (終身雇用)    2 有期雇用

問1-7. 同居しているパートナーの有無について教えてください。(1つだけ選択)

\*本調査では、法律婚・事実婚両方の相手として、「配偶者」や「妻・夫」ではなく、「パートナー」を使用します。

性別は問いません。

- 1 同居しているパートナーがいない                    2 同居しているパートナーがいる

問1-8. 次のうち、あなたに当てはまるものをお答えください。(1つだけ選択)

- 1 日本国籍をもっている                    2 日本国籍をもっていない

(附属学校園教員対象)

**1. あなたについての質問**

問1-1. あなたの性別を教えてください。(1つだけ選択)

- 1 男性                    2 女性                    3 その他                    4 答えたくない

問1-2. あなたは、現在何歳ですか。(1つだけ選択)

- 1 20代    2 30代    3 40代    4 50代    5 60代～

問1-3. 埼玉大学での通算した勤続年数はどのくらいですか。(1つだけ選択)



- 1 3年未満                      2 3～6年未満                      3 6～10年未満  
4 10～20年未満                      5 20～30年未満                      6 30年以上

問1-4. あなたの所属について教えてください。(1つだけ選択)

1 附属幼稚園	2 附属小学校	3 附属中学校	4 附属特別支援学校
---------	---------	---------	------------

問1-5. 同居しているパートナーの有無について教えてください。(1つだけ選択)

\*本調査では、法律婚・事実婚両方の相手として、「配偶者」や「妻・夫」ではなく、「パートナー」を使用します。性別は問いません。

- 1 同居しているパートナーがいない                      2 同居しているパートナーがいる

問1-6. 次のうち、あなたに当てはまるものをお答えください。(1つだけ選択)

- 1 日本国籍をもっている                      2 日本国籍をもっていない

(研究員等対象)

\*研究員等とは、特定プロジェクト研究員、研究支援者、非常勤研究員、産学官連携研究員をいう。

**1. あなたについての質問**

問1-1. あなたの性別を教えてください。(1つだけ選択)

- 1 男性                      2 女性                      3 その他  
4 答えたくない

問1-2. あなたは、現在何歳ですか。(1つだけ選択)

- 1 10代    2 20代    3 30代    4 40代    5 50代    6 60代～

問1-3. 埼玉大学での通算した勤続年数はどのくらいですか。(1つだけ選択)

- 1 3年未満                      2 3～6年未満                      3 6～10年未満  
4 10～20年未満                      5 20～30年未満                      6 30年以上

問1-4. あなたの所属について教えてください。(1つだけ選択)

1 教育学部	2 人文社会科学研究科 (学際系)	3 人文社会科学研究科 (経済系)
4 理工学研究科	5 各機構・センター	6 その他 (                      )

問1-5. あなたの雇用形態について教えてください。(1つだけ選択)

1 常勤			
非常勤			
2 期間雇用	3 パート (週30時間)	4 パート (週30時間未満)	

問1-6. 同居しているパートナーの有無について教えてください。(1つだけ選択)

\*本調査では、法律婚・事実婚両方の相手として、「配偶者」や「妻・夫」ではなく、「パートナー」を使用します。性別は問いません。

- 1 同居しているパートナーがいない                      2 同居しているパートナーがいる



**(全員にうかがいます)**

問2-7. あなたの職場は、有給休暇を取得しやすい雰囲気ですか。(1つだけ選択)

- 1 大変取得しやすい雰囲気
- 2 まあ取得しやすい雰囲気
- 3 普通
- 4 あまり取得しやすい雰囲気ではない
- 5 まったく取得しやすい雰囲気ではない

問2-8. 埼玉大学における男女格差について、お聞きします。(各1つだけ選択)

項目	男性が 優遇されている	男性がやや 優遇されている	格差はない	女性がやや 優遇されている	女性が 優遇されている
1 採用の条件に格差がある	1	2	3	4	5
2 配置や仕事の分担に格差がある	1	2	3	4	5
3 賃金・昇給の面で格差がある	1	2	3	4	5
4 昇進・昇格の機会に格差がある	1	2	3	4	5
5 新任研修や管理職研修、その他の 教育訓練の機会に格差がある	1	2	3	4	5
6 福利厚生の中で格差がある	1	2	3	4	5
7 評価に格差がある	1	2	3	4	5
8 その他 ( )					

(問2-9、2-10は、問2-8で1つでも3以外の回答がある人がお答えください)

問2-9. 埼玉大学における男性と女性の仕事の違いについて、お聞きします。(各1つだけ選択)

項目	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
1 女性の仕事は補助的業務や雑務が多い	1	2	3	4
2 男性の仕事は責任が重くきつい	1	2	3	4
3 時間外労働が男性に偏りがちである	1	2	3	4
4 男性は休暇が取りにくい	1	2	3	4
5 その他 ( )				

問2-10. 埼玉大学で男女格差のある原因は何だと思いますか。(各1つだけ選択)

項目	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
1 女性は男性に比べて勤続年数が短いから	1	2	3	4
2 女性は体力的に男性より劣るから	1	2	3	4
3 上司や同僚に男女差別意識があるから	1	2	3	4
4 女性は仕事に対する姿勢が甘いから	1	2	3	4

5 女性は結婚・育児等で、家庭での役割が増すから	1	2	3	4
6 社会の男女差別的な意識や制度が埼玉大学にも反映されているから	1	2	3	4
7 その他 ( )				

### 3. 家事についての質問

問3-1. あなたの家庭では、次の家事を主にどなたが担当していますか。(当てはまるものすべて選択)

もし、負担が同程度の場合は、当てはまる複数の番号に○をつけてください。

家事項目	家事の担当者			
	自分	パートナー	その他の家族	その他
1 食事の支度	1	2	3	4
2 食事のかたづけ	1	2	3	4
3 食料や日用品の買い物	1	2	3	4
4 住生活管理(掃除、自動車管理、庭の手入れなど)	1	2	3	4
5 衣生活管理(洗濯や衣類整理、アイロンがけなど)	1	2	3	4

問3-2. あなたが担っている、現在の家事労働に負担を感じていますか。(一人暮らしの場合もお答えください)(1つだけ選択)

- 1 かなり感じている                      2 少し感じている  
3 あまり感じていない                      4 まったく感じていない

### 4. 育児、介護に関する質問

問4-1. あなたの家庭では育児、介護を主にどなたが担当していますか(いましたか)。

もし、負担が同程度の場合は、当てはまる複数の番号に○をつけてください。

(当てはまるものすべて選択)

項目	担当者				
	自分	パートナー	その他の家族	その他	該当者がいない
1 育児	1	2	3	4	5
2 介護(別居の両親や親族の介護も含む)	1	2	3	4	5

(以下、該当者がいる方のみお答えください。)

問4-2. あなたが担っている、育児に負担を感じていますか(いましたか)。(1つだけ選択)

- 1 かなり感じている                      2 少し感じている  
3 あまり感じていない                      4 まったく感じていない

問4-3. あなたが担っている、介護に負担を感じていますか（いましたか）。（1つだけ選択）

- 1 かなり感じている
- 2 少し感じている
- 3 あまり感じていない
- 4 まったく感じていない

問4-4. あなたは、埼玉大学で育児休業を取得しましたか。（1つだけ〇）

- 1 取得した（期間： 年 ヶ月）
  - 2 取得しなかった
  - 3 制度がなかった
  - 4 子どもがいない
- 複数回取得した場合は合計期間を記入してください

→ 問4-5へ

→ 問4-6へ

→ 問4-7へ

問4-5. 当時のあなたの職場は、あなたが育児休業を取得しやすい雰囲気でしたか。

（1つだけ選択）

- |          |          |    |           |            |
|----------|----------|----|-----------|------------|
| 1        | 2        | 3  | 4         | 5          |
| 大変取得しやすい | まあ取得しやすい | 普通 | あまり取得しやすい | まったく取得しやすい |
| 雰囲気だった   | 雰囲気だった   |    | 雰囲気ではなかった | 雰囲気ではなかった  |

問4-6. 育児休業を取得しなかった理由を教えてください。（当てはまるものすべて選択）

- 1 仕事を中断したくなかった
- 2 収入を減らしたくなかった
- 3 必要性を感じなかった
- 4 自分以外の保育者を確保できた
- 5 制度はあったが取得できる環境ではなかった
- 6 制度を知らなかった
- 7 パートナーが育児休業を取得した
- 8 その他（ ）

（全員にうかがいます）

問4-7. 育児にあたって大学に求める制度や支援について記入してください。（自由回答）

{

問4-8. あなたは、大学で介護休業を取得しましたか。（1つだけ選択）

- 1 取得した（期間： 年 ヶ月）
  - 2 取得しなかった
  - 3 制度がなかった
  - 4 該当者がいない
- 複数回取得した場合は合計期間を記入してください

→ 問4-9へ

→ 問4-10へ

→ 問4-11へ

問4-9. 当時のあなたの職場は、あなたが介護休業を取得しやすい雰囲気でしたか。

（1つだけ選択）

- |          |          |    |           |            |
|----------|----------|----|-----------|------------|
| 1        | 2        | 3  | 4         | 5          |
| 大変取得しやすい | まあ取得しやすい | 普通 | あまり取得しやすい | まったく取得しやすい |
| 雰囲気だった   | 雰囲気だった   |    | 雰囲気ではなかった | 雰囲気ではなかった  |

問4-10. 介護休業を取得しなかった理由を教えてください。（当てはまるものすべて選択）

- 1 仕事を中断したくなかった
- 2 収入を減らしたくなかった
- 3 必要性を感じなかった
- 4 自分以外の介護者を確保できた
- 5 制度はあったが取得できる職場環境ではなかった
- 6 制度を知らなかった

**(全員にうかがいます)**

問4-1 1. 介護にあたって大学に求める制度や支援について記入してください。(自由回答)

--

**5. ハラスメントに関する質問**

問5-1. あなたは、ハラスメントについての研修を今までに受けたことがありますか。

**(1つだけ選択)**

1 ある

2 ない

問5-2. セクハラに関するあなたの率直な意見をお聞かせください。以下の各項目について最も近い番号を選び、○をつけてください。**(最も近い番号1つを選択)**

項目	強く そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない
1 性的なジョークや話題を規制すると職場の人間関係が窮屈になる	1	2	3	4
2 セクハラ行為は受ける側にも問題がある	1	2	3	4
3 少々のセクハラにいちいち目くじらを立てるべきではない	1	2	3	4
4 相手が女性か男性かによって、仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない	1	2	3	4
5 勘違いまたは悪意によるセクハラのエン罪が発生することが心配である	1	2	3	4

問5-3. あなたは、埼玉大学の構成員（教職員、学生、院生など）や学外の仕事上の関係者から、次のような行為を受けたことがありますか。また、そのような行為を目撃したり、話を聞いたりしたことがありますか。**(当てはまるものすべて選択)**

項目	受けたこと がある	見たり聞い たりした ことがある	相談を受け たことが ある	いずれも ない
1 容姿・体型・服装・年齢・化粧などについて繰り返し話題にする	1	2	3	4
2 性的な話を聞かされる	1	2	3	4
3 気軽に身体に触られる	1	2	3	4
4 胸、お尻、脚などの身体の一部を見つめられる	1	2	3	4



# 男女共同参画推進に関する意識・実態調査のお願い

令和2年9月23日

埼玉大学 学生・大学院生・研究生の皆様

埼玉大学ダイバーシティ推進室（旧 男女共同参画室）では、平成22年から5年ごとに「男女共同参画推進に関する意識・実態調査」を実施し、その結果を、本学における男女共同参画推進に関する取り組みに反映させてきました。

今回の調査は、埼玉大学の学生・大学院生・研究生等の方々の男女共同参画推進に関する意識と実態を把握するために実施するものです。今回の調査結果は、前回までの調査結果を踏まえ、今後の方策の検討と実施において活用いたします。趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査の内容につきましては、個人的な属性についてもお伺いしますが、集計・分析・結果公表にあたっては、統計的な処理が行われ、個人が特定されることはありません。また調査目的以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

埼玉大学副学長（ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当）・  
埼玉大学ダイバーシティ推進室長 田代 美江子

対 象 埼玉大学 学生・大学院生・研究生

回答期限 令和2年10月20日（火）

回答方法 WEB 調査（株式会社アクロス）

<https://www.across-net.co.jp/mrs/saitama-u/student.html>

（回答目安時間は15分程度です）

問い合わせ先：総務部人事課教職員係

E-mail : ksyoku12@gr.saitama-u.ac.jp



問1. 性別を教えてください。(1つだけ選択)

- 1 女性      2 男性      3 その他      4 答えたくない

問2. 現在何歳ですか。(1つだけ選択)

- 1 20歳未満      2 20～25歳未満      3 25～30歳未満      4 30歳以上

問3. 学年等を教えてください。(1つだけ選択)

- 1 1年生      2 2年生  
3 3年生      4 4年生  
5 大学院生(修士課程)      6 大学院生(博士課程)  
7 研究生      8 その他( )

問4. 所属を教えてください。(1つだけ選択)

- 1 教養学部      2 経済学部      3 教育学部  
4 理学部      5 工学部      6 人文社会科学研究科(学際系)  
7 人文社会科学研究科(経済系)      8 教育学研究科  
9 理工学研究科

問5. あなたの出身高校について教えてください。(1つだけ選択)

- 1 公立で男女共学      2 公立で男子校      3 公立で女子校  
4 私立で男女共学      5 私立で男子校      6 私立で女子校  
7 その他( )

問6. 次のうち、あなたに当てはまるものをお答えください。(1つだけ選択)

- 1 日本国籍をもっている      2 日本国籍をもっていない

問7. あなたは、埼玉大学で、男女共同参画・ジェンダー平等・ダイバーシティ(多様性)に関する次のような内容について学んだことはありますか。あるものに○を付けてください。(当てはまるものすべて選択)

- 1 男女平等、ジェンダー平等について  
2 性の多様性について  
3 デートDV(交際相手からの暴力)について  
4 セクシャル・ハラスメント(以下「セクハラ」という。)について  
5 性暴力について  
6 性にかかわる身体・健康のこと(妊娠、避妊、人工妊娠中絶、性感染症など)について  
7 障がい者や外国人の人権や差別について  
8 アカデミック・ハラスメントについて

9 その他 ( )

10 どれも学んだことがない

問8. あなたは、埼玉大学以外で、男女共同参画・ジェンダー平等・ダイバーシティ(多様性)に関する次のような内容について学んだことはありますか。あるものに○を付けてください。(当  
てはまるものすべて選択)

1 男女平等、ジェンダー平等について

2 性の多様性について

3 デートDV (交際相手からの暴力) について

4 セクシャル・ハラスメント (以下「セクハラ」という。) について

5 性暴力について

6 性にかかわる身体・健康のこと (妊娠、避妊、人工妊娠中絶、性感染症など) について

7 障がい者や外国人の人権や差別について

8 アカデミック・ハラスメントについて

9 その他 ( )

10 どれも学んだことがない

問9. あなたは、将来働き続けようと思っていますか。(1つだけ選択)

1 はい      2 いいえ      3 わからない

問10. あなたが働くうえで、以下のことは障害になると思いますか。

(各1つだけ選択)

項 目	そう思う	ややそう 思う	あまりそ う思わな い	全くそう 思わない
1 結婚	1	2	3	4
2 出産	1	2	3	4
3 家事	1	2	3	4
4 育児	1	2	3	4
5 介護	1	2	3	4
6 病気	1	2	3	4
7 不況、リストラなど経済環境	1	2	3	4
8 その他 ( )				

問11. あなたは、自分とパートナーとの役割分担はどのようにしたいと思いますか。

(1つだけ選択)

\*本調査では、法律婚・事実婚両方の相手として、「配偶者」や「妻・夫」ではなく、「パートナー」を使用します。  
性別は問いません。

- 1 自分が収入を得て、パートナーは働かないで家庭で家事・育児をする
- 2 自分が主な収入を得て、パートナーは家計の補助となるような仕事をし、家事・育児をする
- 3 自分もパートナーも同等に働き、同等に家事・育児を分担する
- 4 自分もパートナーも同等に働き、家事・育児は主にパートナーが行い、自分はそれをサポートする
- 5 パートナーが収入を得て、自分は働かないで家庭で家事・育児をする
- 6 パートナーが主な収入を得て、自分は家計の補助になるような仕事をし、家事・育児をする
- 7 パートナーも自分も同等に働き、家事・育児は主に自分が行い、パートナーはそれをサポートする
- 8 その他 ( )

問 12. あなたは、どのような行為がセクハラであるかを知っていますか。

(1つだけ選択)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 まったく知らない  | 2 あまり知らない |
| 3 ある程度知っている | 4 よく知っている |

問 13. セクハラに関するあなたの率直な意見をお聞かせください。

(各1つだけ選択)

項 目	そう思 う	そう思 う気持 ちもあ る	そうは 思わな い	どちら ともい えない
1 性的なジョークや話題を規制すると人間関係が窮屈になる	1	2	3	4
2 セクハラ行為は受ける側にも問題がある	1	2	3	4
3 少々のセクハラにいちいち目くじらを立てるべきではない	1	2	3	4
4 相手が女性か男性かによって、仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない	1	2	3	4
5 勘違い又は悪意によるセクハラのエン罪が発生することが心配である	1	2	3	4

問 14. 交際相手から以下のような行為があった場合、あなたはそれをデートDV（交際相手からの暴力）だと思いませんか。(各1つだけ選択)

項 目	D V だ と思う	D V だ と思わ ない	どちら ともい えない	わから ない

1 携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする	1	2	3	4
2 すぐに電話に出なかったり、メールを返信しないと怒る	1	2	3	4
3 思い通りにならないと、どなったり、おどしたりする	1	2	3	4
4 物を壊したり、投げたりする	1	2	3	4
5 何を言っても無視する	1	2	3	4
6 バカにしたり、ののしったりする	1	2	3	4
7 「別れたら死ぬ」といっておどす	1	2	3	4
8 いつも一緒にいることを強要する	1	2	3	4
9 性的な動画・写真を要求する	1	2	3	4

問 15. 次のデートDVに関する考え方について、あなたはどのように思いますか。

(各1つだけ選択)

項 目	そう思 う	そう思 う気持 ちもあ る	そうは 思わな い	どちら ともい えない
1 相手が自分を怒らせるようなことをした場合、あるいは自分が相手を怒らせるようなことをした場合は、DVがおこっても仕方ない	1	2	3	4
2 相手の愛情を確かめるためにDVがおこることもある	1	2	3	4
3 相手が自分の思い通りにならないときにDVがおこるのは仕方ない	1	2	3	4
4 DVの加害者はいつも男とは限らない	1	2	3	4

問 16. 埼玉大学で教員から次のような扱いあるいは発言をされたことがありますか。

(各1つだけ選択)

項 目	経験がある	見たことがあ る	経験も見たこ ともない
1 女子が優遇される	1	2	3
2 男子が優遇される	1	2	3
3 性に限らず差別的な扱いや発言を受ける	1	2	3
4 セクハラと思われるような発言や行為	1	2	3
5 適切な指導を受けられない	1	2	3
6 人前で人格や能力を否定される	1	2	3
7 執拗に説諭される (メールなども含む)	1	2	3
8 単位を出さないとおどされる	1	2	3
9 研究内容が制限される	1	2	3
10 帰省やアルバイトなどプライベートな生活に規制を加える	1	2	3
11 性別役割を求められる	1	2	3

12 個人的な付き合い(デートや恋愛、性的な関係)を求められる	1	2	3
---------------------------------	---	---	---

問 17. 教育実習、介護実習、インターンシップなどの経験はありますか。(1つだけ選択)

- 1 はい →問 18      2 いいえ →問 19

(問 17 で「はい」と答えた方にお聞きします)

問 18. 教育・介護実習・インターンシップ先で、次のような扱いあるいは発言を経験したことがありますか。

(各 1 つだけ選択)

項 目	経験がある	見たことがある	経験も見たこともない
1 女子が優遇される	1	2	3
2 男子が優遇される	1	2	3
3 性に限らず差別的な扱いや発言を受ける	1	2	3
4 セクハラと思われるような発言や行為	1	2	3
5 適切な指導を受けられない	1	2	3
6 人前で人格や能力を否定される	1	2	3
7 執拗に説諭される(メールなども含む)	1	2	3
8 帰省やアルバイトなどプライベートな生活に規制を加える	1	2	3
9 性別役割を求められる	1	2	3
10 個人的な付き合い(デートや恋愛、性的な関係)を求められる	1	2	3

問 19. 埼玉大学のクラス・ゼミやサークルなど学生同士の関係の中で、次のような経験をしたことがありますか。(各 1 つだけ選択)

項 目	経験がある	見たり聞いたりしたことがある	いずれもない
1 性別による役割がある	1	2	3
2 性暴力、性的ないやがらせやいじめ(男性に対するものや同性同士も含む)	1	2	3
3 水着やハダカになるよう強要される	1	2	3
4 集団で風俗(買春)に行くことを誘われる	1	2	3
5 風俗に行った(買春した)話を聞かされる	1	2	3
6 容姿・体型・服装などについて繰り返し話題にされる	1	2	3
7 自分の意に沿わず気軽に身体に触られる(同性同士も含む)	1	2	3
8 性的なうわさを流される	1	2	3
9 胸、お尻、脚などの身体の一部を見つめられる	1	2	3

10 食事やデートにしつこく誘われる	1	2	3
11 酔って抱きつかれたり、触られたりする	1	2	3
12 性的な内容の電話、手紙、メールを送られる	1	2	3
13 性別による決めつけや差別的な発言	1	2	3
14 「おかま」「ホモ」「レズ」といった言葉でのからかい	1	2	3
15 性的な動画・写真を見せられる	1	2	3

**(問 19「1 性別による役割がある」で「経験がある」「見たり聞いたりしたことがある」と答えた方にお聞きします)**

問 20. 具体的にはどのような役割ですか。(当てはまるものすべて選択)

- 1 リーダーは男性である
- 2 料理の取り分けやコンパの後片付けなどの世話役割は女性がやる
- 3 マネージャーは女性である
- 4 重い荷物を持つのは男性である
- 5 コンパ代は男性の方が多く払わされる
- 6 女性が料理やお弁当をつくる
- 7 その他 ( )

問 21. 大学生になってからアルバイトをした経験がありますか。(1つだけ選択)

- 1 ある →問 22 へ      2 ない →問 23 へ

問 22. アルバイト先で、次のような経験をしたことがありますか。(各1つだけ選択)

項 目	経験がある	見たことがある	経験も見たこともない
1 女子が優遇される	1	2	3
2 男子が優遇される	1	2	3
3 性に限らず差別的な扱いや発言を受ける	1	2	3
4 セクハラと思われるような発言や行為	1	2	3
5 適切な指導を受けられない	1	2	3
6 人前で人格や能力を否定される	1	2	3
7 執拗に説諭される(メールなども含む)	1	2	3
8 帰省やアルバイトなどプライベートな生活に規制を加える	1	2	3
9 性別役割を求められる	1	2	3
10 個人的な付き合い(デートや恋愛、性的な関係)を求められる	1	2	3

問 23. 埼玉大学が作成している「ハラスメント防止ガイドブック」を知っていますか。

**(1つだけ選択)**

- 1 内容を知っている
- 2 内容は知らないがあることは知っている
- 3 知らない

問 24. 埼玉大学には、ハラスメント相談の窓口があるのを知っていましたか。

(1つだけ選択)

- 1 はい      2 いいえ

問 25. この調査に関してあなたの意見をご自由にお書きください。(自由記述)

ハラスメント防止ガイドブックは以下URLからご覧いただけます。

「埼玉大学統合キャリアセンターSU・STOP! ハラスメント」

[http://www.saitama-u.ac.jp/support/seikatsu/ac\\_hara/](http://www.saitama-u.ac.jp/support/seikatsu/ac_hara/)

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。



【調査に関するお問合せ】 埼玉大学総務部人事課教職員係  
TEL : 048-858-9627 FAX : 048-858-3678  
E-mail : ksyoku12@gr.saitama-u.ac.jp